

ふるさと学習を通した

主権者教育のすすめ



こども模擬議会（コロナ禍前）



酒々井町教育委員会

● ● ● は じ め に ● ● ●

酒々井学（ふるさと学習）のねらいは、町の歴史・文化・自然等について**知る**ことで郷土に対して愛着と誇りを**持ち**、町民としてのふるさと意識を**育む**ことです。

♪ 兎追ひし彼の山 小鮒釣りし彼の川 夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷♪

文部省唱歌の「ふるさと」の歌詞にあるように、子どもの頃にくらしの中で体感した環境は、「**原風景**」として心の中に残り、その後の人生の中で、物事の価値基準として働きます。

本佐倉城跡の景観や酒の井の碑から、町の歴史を感じて、梅の梢で羽を休めるメジロの囀りに耳を傾け、道端の水仙の香りに、ふと足を止める。酒々井学を通して、子どもたちにそんな心の風景や感性をたくさん育んでほしいと思っています。

平成28（2016）年に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを契機に、多くの自治体で、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成する「**主権者教育**」を実践するようになりました。

自分の持ち物を大切にするように、ふるさと学習を通して、**所有格意識（Myまち・Ourまち）**を持つことで、わたしの町として、「大切にしたい」・「よりよくしたい」という**主権者意識**を育むことにもつながります。つまり、ふるさと意識と主権者意識は相関関係にあり、相乗効果をもたらすものと考えます。

この酒々井学を通して、「しすいっ子」が、主体的にまちづくりに参画する町民として育ってくれることを願っています。

♪ 志を果たして いつの日にか帰らん 山は青き故郷 水は清き故郷♪

目 次

はじめに

1	ふるさと学習を通した主権者教育の推進	1
2	酒々井学（ふるさと学習）・主権者教育	9
3	酒々井学プログラム 小学校6学年「酒々井のまちづくり」	10
4	児童作成 まちづくりプランシート「酒々井町への願い」	13
5	授業の実際	25
6	酒々井学プログラム 中学校3学年「酒々井の地方自治」	29
7	スライド資料「ふるさと学習を通した主権者教育の推進」	32
8	町広報紙「広報ニューしすい」	44
9	町議会だより「しすい」	47
10	実践の広報（新聞掲載記事）	49
11	主権者教育 先進地視察報告（山形県遊佐町「少年議会」）	50

おわりに

1 ふるさと学習を通した主権者教育の推進

1. 酒々井町の概要

酒々井町は、明治22年の町村制施行で近隣16か町村の合併により誕生した日本最古の町のひとつである。地理的には千葉県北部の北総台地に位置し、都心から50キロメートル圏内にある。隣接の印旛沼水系をはじめ緑豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれている。

歴史的に見ると、旧石器時代の墨古沢遺跡（国史跡）や戦国時代の千葉氏が築城した本佐倉城跡（国史跡）があり、江戸時代には成田・芝山参詣への宿場町として賑わった。

昭和50年代の大規模な住宅開発に伴う急激な人口増加により、それまでの農業中心の町から、都市機能を備えた新興住宅地へと変貌し、人口2万人を超える町へと発展した。現在、町の恵まれた自然環境や文化遺産を活かして、町民がいきいきと安心して暮らせる町を目指して取り組んでいる。言うまでもなく児童生徒は、明日のまちづくりを担う貴重な人材である。町の発展を念頭に自分たちの住む町に対する「ふるさと意識」を育むことの必要性を感じている。

2. ふるさと学習「酒々井学」

酒々井町総合計画の教育文化の基本目標「豊かな心を育み歴史を生かした文化創造のまちづくり」を受け、教育委員会の基本理念として、町民の誰もが歴史と文化、そして、自然豊かな“郷土・酒々井”に愛着と誇りを持ち、「しなやかに すこやかに いきいきと生きる人づくり」を目指している。

平成29（2017）年度から教育施策の事業で、町の地域的な特色としての歴史・文化・自然や自分たちの生活環境について、知っているようで知らなかったこと（無知の知）を認識して、児童生徒が主体的に郷土のことを学習する「ふるさと学習」（以下、酒々井学）を導入し、自分たちが暮らしている郷土を愛する心の涵養を図っている。

酒々井学とは、町の地域素材を使い教科等の学習内容と関連づけて実践する地域学習・活動である。町の歴史・文化・自然等について知ることで、郷土に対して愛着と誇りを持ち、町民としてのふるさと意識を育むことをねらいとしている。

（1）育てたい子どもの姿

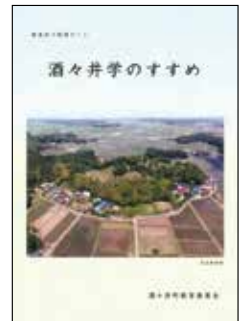
過 程		内 容	子どもの反応
知る	酒々井町のよさ	町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（無知の知）	「ふーんそうなんだ」 「そうだったのか！」
持つ	愛着誇り	心の風景として定着する学習 特色ある地域素材による学習	「酒々井っていいな！」 「すごいんだ！他の町の人に伝えたい」
育む	参画意識 定住意識	地域活動等への参画 ふるさと意識の芽生え	「町のために何かできることをしたい」 「ずっとこの町に住みたい」

（２）酒々井学の推進事業

酒々井学を実践するために、教員の実践意欲と負担軽減の役割を兼ねて、教育委員会で教材研究や指導用資料、児童生徒の学習用資料の作成や学習環境の整備等を推進している。

①教員向け指導ガイド「酒々井学のすすめ」の作成

教員による推進プロジェクトチームを編成し、教員が指導しやすいように、発問で構成した学習プログラムとワークシートを中心とした指導ガイドを作成した。既存の地域教材に教科等の学習内容に関連づけた点に特徴がある。また外部人材等の学習支援体制を整えるなど、町の行政機関との連携・協働体制で実践できるようにしている。



②子ども向け副読本「いいね！酒々井」の作成

子どもが酒々井学を学習するための副読本として、指導ガイド「酒々井学のすすめ」に準拠して作成した。過去の「こども模擬議会」の質問内容一覧、児童が作成した「酒々井町への願い」シートの作品例、酒々井をささえる人々の紹介、酒々井の民話、酒々井の古写真、酒々井の里山図鑑、酒々井町郷土史年表等で構成されている。



③教員向け指導資料集「酒々井発見伝」の作成

教員が酒々井学の教材研究をしたり、指導したりする際に活用できる資料集として作成した。学校郷土資料館の展示資料解説、地域住民が保管していた町の古写真、生物画像、近隣の大学との連携で作成した明治から現代に至るまでの年代別の町地形図、町制施行90周年記念誌の復刻版、町発行の歴史関係のリーフレット等で構成されている。



④小学校郷土資料館の整備

地域住民から提供された民具や農具及び昔の学校で使用していた道具等を収蔵していた空き教室を活用し、酒々井学の学習拠点として学校郷土資料館を整備した。児童にとって読みやすい表現に努めた展示資料解説やイラストパネル等を設置して、郷土で暮らしてきた人々の仕事や生活の様子をイメージしやすいように工夫をした。



資料１ 学校郷土資料館



資料２ 学校郷土資料館で学習する児童

3. 主權者教育

2016年に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことを契機に、多くの自治体が、「子ども議会」を行うようになった。しかし、その内容は、「主権者教育」という言葉が先行したイベント型やセレモニー型での開催が多いというのが実情ではないか。背景には、実施主体である行政や学校サイドが、主権者教育の推進方法や連携体制について、しっかりと議論を重ねたうえで実践していないことがあると考える。

そもそも主権者とは、自分たちは社会に生かされているという受動的な意識から、自分たちが社会をつくっているという主体的な意識をもって社会に参画する者である。そして、主権者教育とは、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくことである。この中心概念を軸に推進体制を構築し、実践方法を検討しないと、せっかくの模擬議会が「発表会」となってしまう場合がある。

酒々井町でも2006年度から、中学校の生徒会が中心になって参加する「こども模擬議会」を開催してきた。しかし、それは当初、生徒会代表者による学校の設備改善等の町行政への要望が多かった。

その後、ふるさと学習（酒々井学）の導入とともに小学生も参加するようになった。

この実践の下地にあるものが、「ふるさと意識」である。まずは、自分が暮らす町に対して「自分の町」であるという所有格(Myまち・Ourまち)の意識を育むことが基本となる。この児童の所有格意識を基本にして学習することで、町の問題を自分ごととして捉え、よりよいまちづくりプランについて、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成することにつながっていく。酒々井町では、この所有格意識を育むふるさと学習を通した実質的な主権者教育の実践を行っている。

4. 酒々井学プログラム

6 学年「酒々井のまちづくり」の実践

小学校学習指導要領第6学年社会科の内容には「国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること」とある。これを踏まえ、酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」では、主権者教育と関連づけて、児童が暮らす町の生活環境の現状に対して関心を持ち、町民としての視点と参画意識に基づいた、主体的な学習活動を展開できるようにした。学習は、社会科の単元「わたしたちの生活と政治」と関連づけて、導入段階において、「町民の願いはどのように実現されるのだろうか」という学習問題を設定して始めた。

【4時間版Ⅱ】

【6 学年】

酒々井学プログラム

社会科・総合	テーマ	酒々井のまちづくり	
ねらい	社会科「わたしたちの生活と政治」（市民の願いを反映する政治）で野の政治の働きに関心を持たせ、さらに地域の方々の生活や市の政治の働きが反映していることを理解する。町のかうの政治について知んを深め、町民としての意識を高め、政治活動に及びたい行動を行う。（主たる教育目標） 【資料】町議会会合・広報ニュースーしすい、議会だより、町・町・町議会、いぬいぬ（町・市）		
過程	活動期	と・内容	資料
つかひ	1. 酒々井町に対する願いを整理し合ふ。 ・くらし・福祉・教育・観光・産業・まちづくり・安全・安心 2. 公共施設を建設するまでの流れを考える。 ・お金の考えを追加で説明し、【AL】 町民の願いはどのように実現されるのだろうか		
評価	3. 教科書の事例をもとにワークシートに記入する。 ・町民の願い ・町会長の働き ・町議会の働き ・税金の働き 4. 「グリーニール酒々井」を事例に読みとめる。町民の願いを、建設されるまでのワークシートに入力する。 5. 町民の願いが反映されるまでをワークシートで考える。 6. 酒々井町のもちづくり計画について説明を聞く。 酒々井町は町民によってくらしやすい町であるか		
授業展開	7. 各自の考えと町の現状をワークシートに記入する。 ・くらしや学校・町のおき ・くらしや学校・町のおき 8. 他校町（自治体）の町議会の取組を調べる。（AL 活用） 9. 各自、町・市議会について記事点、町・市議会に記入する。 酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう！		
授業評価	10. 各自の考えを整理し合ふ。 ・まちづくり・福祉・教育・観光・産業・まちづくり・安全・安心 11. 町議会会合で自分のプランを発表する。 ・各学級1名（各名）		
評価	町民の願いはどのように実現されるのだろうか 酒々井町は町民によってくらしやすい町であるか 酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう！		
評価	町民の願いはどのように実現されるのだろうか 酒々井町は町民によってくらしやすい町であるか 酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう！		

- 3 -

資料3 酒々井学プログラム

(1) 町役場のはたらき (7月)

企画財政課の職員に依頼し、児童に対して公共施設「プリミエール酒々井」(町立図書館)の建設の経緯について説明し、町民の願いを実現するための行政の仕組みについて解説してもらった。次に、酒々井町総合計画(子ども版)を使って行政のまちづくり計画についても説明した。児童は、暮らしと行政の関わりを知ることで、自分たちの身近な生活環境を調べようとする目的意識を持つことができた。



資料4「まちづくり計画」の説明

そして、学習問題「酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか」を設定した。児童は、町の様子を想起して、予想「くらしやすい・くらしにくい」を立て、各自の予想を確かめる証拠(根拠)となる資料を収集する問題解決的な学習に取り組んでいった。

これまでの実践での児童が作成したまちづくりプランは、当然のことながら自分たちの身近な生活圏である学校、通学路、公園といったテーマが多かった。

そこで、児童の視野を広げるために、新聞記事の活用やSDGs(持続可能な開発目標)の視点を導入した。

これは、新聞(県内版)の身近な他自治体のまちづくりに関する記事を参考にしたり、SDGsの視点で町の環境を見直したりする調査活動である。この調査内容を基に町行政の取組について、町の広報紙やWEBで確認したり、役場に直接質問したりする。

この活動により、児童は多面的多角的な視点でまちづくりについて考えられるようになった。



資料6 廊下に掲示した新聞記事



資料5 新聞記事「千葉日報 2021.7.9」

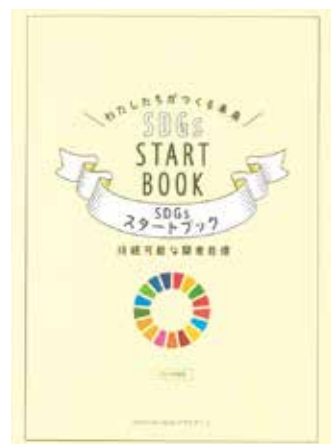


資料7 新聞記事を調べる児童(NIE活用)



資料 8 社会福祉協議会で調べる児童

社会福祉協議会で、「フードバンク」について聞くことで、行政の取組に実感を持った。持続可能な社会にするための現状と課題をデータと事例で示している冊子を、副読本として活用した。



資料 9 SDGs スタートブック
(東京書籍)

(2) 町の生活環境調査(夏季休業中の課題)

児童に町の生活環境という社会的事象を見るための視点を持たせることで、知っているようで知らなかったことや、見ているようで見ていなかったことに気付くようになる。

児童は日常の生活環境でのよい所や困る所に気付いて、町の暮らしの改善点を考えた。次に、行政サイドで場所の確認ができるように、調査地点が分かる地図を描き、状況が分かるように、イラストや画像を使うなどの表現活動を行った。

その後、調査内容を基にして、自分で調べた町の生活環境の課題から考えた改善プランについて、文章や図を使って分かりやすく「酒々井町への願い」シートにまとめた。

(3) まちづくりプラン「酒々井町への願い」シートの発表(9月)

はじめに選挙管理委員会の職員から、選挙の仕組みについて説明を受けた後に、学級毎に各自のまちづくりプランを発表し合った。



資料 10 選挙管理委員会による選挙の説明

シートは①町のくらしの改善点、②場所が分かる地図、③状況が分かるイラストや写真、④町への質問・提案で構成されており、シートを見れば、誰でも町の現状と改善プランについて分かるようになっている。

酒々井町への願い		小学校 6年 1組
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？(くらしやすい・くらしにくい)		
問題	馬、公園が狭い、自然も少ない、お宅も狭い	
町のくらしの改善点 町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！		
大宮小学校でもキャップやペットボトルを集めてはリサイクルしている人たちが、公園にペットボトルの集めるボックス、キャップを集めるボックスなど、置いた方がよいと思う。		
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！
住居	そのまゝで使われている リサイクルする	
大森公園	リサイクルする	
町への質問・提案 回収するボックスを置いてリサイクルし、		
★文章や図を添えてわかりやすくまとめよう！		
公園の周りに見やすい場所に設置、近くにふたつのごみ箱も置いてティッシュやおしぼりなど、ボックスに入れさせないようにする。人がよく来る、近くに住居が近くある公園に設置。		
SDGs 目標No.	12 持続可能な消費と生産	
目標	12.5 廃棄物の削減	

資料 11 児童作成シート「酒々井町への願い」

行政の仕組みについて学習した後なので、自分たちの町をよりよくするという視点で、自分のプランを主体的に発表することができた。発表を聞く側の児童は、発表者のプランが、①多くの町民の願いでもあるか、②町の予算を使用することにふさわしいか、③必要性があるか、④実現性はあるかという4つの視点に基づいたチェックシートで評価をして、代表者を選んで投票する際の資料とした。



資料 12 シート「酒々井町への願い」の発表

(4) こども模擬選挙

学級毎に発表した「まちづくりプラン」を基に、選挙管理委員会から借用した記載台と投票箱と実物と同じ素材の模擬投票用紙を使用して、模擬議会の代表者1名を選出した。本格的な選挙を模擬的に体験することで、緊張感の中にも、政治に主体的に関わる町民としての資質でもある主権者意識を育むことができた。



資料 13 こども模擬選挙

(5) こども模擬議会 (10月)

総務課及び議会事務局と連携して、各小・中学校の児童生徒15名が一般質問を行う模擬議会を開催している。小学校からは、模擬選挙で選ばれた5名の児童が、

- ①町内の体育館へのエアコンや空気清浄機の設置
- ②公民館を子どもが利用できる施設に改修
- ③酒々井町の公園に発電ブランコの設置
- ④駅の空きスペースに、子どもも楽しめる床発電の設置
- ⑤リサイクルボックスの設置でリサイクル活動の推進

について質問と提案をした。

- ①は、コロナ禍に対応した設備について、
- ②③は、新聞記事の他市の取組を参考にし、
- ④⑤は、SDGsの視点に基づいたプランとなっ

ていて、多面的多角的な視点でまちづくりについて考えた内容であった。

模擬選挙で選出されなかった内容的に似ている児童のプランも取り入れて、学級の代表者としての参加意識を持たせた。



資料 14 こども模擬議会 (コロナ禍前)

(6) 町民に向けた情報発信 (11月)

児童作成シート「酒々井町への願い」は、経済環境課と連携して、多くの町民が集まる「ふるさとまつり」の会場となる中央公民館に掲示した。児童のまちづくりプランに対して、参観した町民の意見や感想を付箋紙に記入し、模造紙に貼っていただくことで、双方向性を図った。このことは、まちづくりに対する町民に向けたメッセージともなった。



資料 15 ふるさとまつりでの掲示 (コロナ禍前)

○町民からのメッセージ (付箋紙)

- ・子どもに考える機会、伝える機会を与えれば、様々な発想で、対策を考えるのだと分かりました。よい学習だと思います。(50才男性)
- ・酒々井町のことをしっかりと考えていることに感動しました。大人になっても酒々井に残り、町を活性化してほしいと思います。(27才女性)

この酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」の実践を通して、全児童が、今まで見過ごしていた自分たちの生活環境を住民目線で見直し、行政に反映させるという主権者教育の一端を展開することができた。代表者に選出された児童は、次のような作文を書いた。

○児童の作文 (6年男子)

- ・模擬議会では町長さんなどのたくさんの人がいてとてもきんちょうしました。でも、自分の意見をしっかりと言えたのでよかったです。これからは、積極的に自分たちのまわりのことに目を向けながら、酒々井町をよりよくできることは何かを考えていきたいと思います。

資料16 町広報紙「広報ニューしすい」

学校と行政の取組を町の広報紙に掲載することで、町民に向けたメッセージとなった。

- ・ふりかえりシートの集計(大室台小6年)

★学習したことをいかして酒々井町で何かをしたいと思いませんか? (参画意識)

調査日 2021.9.10

点	自己評価	事前	事後
5	とても思う	14 名	33 名
4	思う	43 名	25 名
3	どちらでもない	7 名	6 名
2	思わない	4 名	2 名
1	ぜんぜん思わない	1 名	0 名
	合計	69 名	66 名
	平均値	3.94 点	4.35 点



5. 課題と今後の展望

ふりかえりシートの集計を分析すると、まちづくりへの参画意識は、学習前よりも学習後の方が高まっていた。5の「とても思う」と自己評価をした児童は、その理由として、「友達のプランを聞いて模擬選挙をすることで、町のことを知り、自分にもできそうなのがたくさんあった。18才以上になったら選挙に行きたい」と記していた。

児童は、自分たちの暮らしの中で、町のよさや改善点を知ること、よりよい町にするための方策を考えるようになった。そして、それを自分だけのプランにとどめずに町行政に反映させることの可能性を感じ取り、主権者意識を育むことにつながった。

行政側としても将来のまちづくりを担う人材を育成するために、各関係課の職員が率先して指導に関わり、児童たちの町行政に関する質問にも真摯に対応し、太陽光発電の設置、駅のバリアフリー化、通学路のカラー分離舗装化等、可能な範囲で実現化を図っている。

このような町ぐるみで子どもを育てるという学校と行政機関との連携・協働の推進体制と町行政職員の熱意が、児童たちに、「酒々井っていいな！」と思える「ふるさと意識」の醸成と「ふるさと共創」によるまちづくりへとつながっていくと確信している。

本実践の課題としては、小中連携の視点から、中学校でのステップアップしたプログラム化と模擬議会後の児童生徒によるまちづくりについての協議の場の設定が求められる。今後は、学習指導要領「社会科」の目標である公民としての資質・能力の基礎を育成するためにも、児童生徒に単なる要望だけではなく、町のために自分たちにできることを考えて行動するための参画意識をより高めていきたい。

参考資料

- ・公益財団法人 明るい選挙推進協会 考える主権者をめざす情報誌「Voters」

2 酒々井学（ふるさと学習）・主権者教育

酒々井学（ふるさと学習）

1 酒々井学とは

酒々井町の地域素材を使って教科等の学習内容と関連づけて作成した学習プログラムを通して実践する地域学習・地域活動

2 ねらい

酒々井町の歴史・文化・自然等について知ることで、郷土に対して愛着と誇りをもち、町民としてのふるさと意識（参画・定住）を育む。

3 育てたい子どもの姿

過 程		内 容	子どもの反応例
知る	酒々井町のよさ	町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（無知の知）	「ふーんそうなんだ」 「そうだったのか！」
持つ	愛着 誇り	心の風景として定着する学習 特色ある地域素材による学習	「酒々井っていいな！」 「すごいんだ！他の町の人に伝えたい」
育む	参画意識 定住意識	地域活動等への参画 ふるさと意識の芽生え	「町のために何かできることをしたい」 「ずっとこの町に住みたい」

主権者教育

1 国民主権とは

主権とは、国の政治の在り方を最終的に決定する権利のことで、国民がその役割を担う頃を国民主権といいます。（日本国憲法の三原則の1つ）

2 主権者とは

自分たちは社会に生かされているという受動的な意識から、自分たちが社会をつくっているという主体的な意識をもって社会に参画する者です。

3 主権者教育とは

国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成していくことです。

3 酒々井学プログラム 小学校6学年「酒々井のまちづくり」

(4時間扱い)

社会科・総合		テーマ	酒々井のまちづくり	
ねらい	社会科「わたしたちの生活と政治」（町民の願いを実現する政治）で町の政治の働きに関心を持ち、生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解する。町のくらしの現状に対して関心を持ち、町民としての参画意識に基づく活動を行う。（主権者教育） 【資料】町総合計画・広報ニューしすい・議会だより・町WEB・副読本「いいね！酒々井」			
	過程	学習活動 と ・内容	「発問」と ・指導	資 料
つかむ 1	1. 酒々井町に対する願いを発表し合う。 ・くらし・福祉・教育・観光 ・産業・環境・防災・安全等 2. 公共施設を建設するまでの流れを考える。 ・各自の考えを黒板で説明し合う。【AL]		「みなさんは酒々井町に対してどのような願いを持っていますか？」 ・アンケートを基に発表させる。 「町民の願いはどのように実現されると思いますか？」 ・公共施設を建設するという想定でシートに記入させる。	・「酒々井の町づくり」シート
	町民の願いはどのように実現されるのだろうか？			
調べる 1	3. 教科書の事例を基にワークシートに記入する。 ・町民の願い ・町役場の働き ・町議会の働き ・税金の働き		「教科書の事例を基に公共施設が建設されるまでの流れをまとめてみましょう」 ・各自、町公共施設「プリミエール酒々井」の建設の流れをシートに予想させる。	・プリミエール酒々井シート
	4. 「プリミエール酒々井」を事例に建設までの経緯を聞く。 ・ワークシートに記入する。 5. 町民の願いが実現されるまでをフローチャートにする。 6. 酒々井町のまちづくり計画について説明を聞く。		「役場の方からプリミエール酒々井が建設されるまでの流れを説明してもらいます」 ・他市の事例と比較して確認させる。 ・プリミエール酒々井の事例を基に作成させる。 「酒々井町のまちづくりの計画について、説明してもらいます」	・企画財政課の職員 ・ワークシート
まとめる 1	酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？			・第5次町総合計画「しすいの町づくり」
	7. 各自の考えとその理由をワークシートに記入する。 ・くらしやすい（町のよさ） ・くらしにくい（町の改善点） 8. 他市町（自治体）の行政等の取組を調べる。（NIE活用） 9. 各自、町内を観察して改善点をワークシートに記入する。		「酒々井町のくらしやすさについてシートに書きましょう」 ・改善点を整理して、町をよりよくしたいという視点で調査計画を立てさせる。 「他のまちではどのようなことをしているのか新聞記事を見て調べてみましょう」 「夏休みに町民のくらしの目線で町を観察して改善したいことをまとめましょう」	・副読本「いいね！酒々井」 ・新聞記事
発展 夏季休業	酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう！			・「酒々井町への願い」シート
	10. 各自の考えを発表し合う。 ・選挙の仕組み・投票の仕方 ・模擬選挙での代表者の選出 11. こども模擬議会で自分の町づくりプランを発表する。 ・各学級1名（5名）		・選挙管理委員会の方の説明を聞く。 ・こども模擬議会の発表者を選挙で選ぶ。 「学級の代表者として、自分の町づくりプランをこども模擬議会で発表しましょう」 ・フリップを提示し分かりやすく説明する。	・選挙管理委員会の職員 ・記載台 ・投票箱 ・質問書 ・フリップ

酒々井のまちづくりシート 名前 ()

1. アンケート

(1) 酒々井町は好きですか？

【 すき ・ どちらでもない ・ きらい 】

理由

(2) 酒々井町でずっとくらしたいですか？(戻りもふくむ) 【 はい ・ どちらでもない ・ いいえ 】

理由

2. 町民の願いの実現(みんなが使う建物を建設する時の流れを予想して図にしてみよう！)

町民の願い



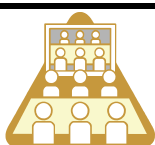
公共施設の建設・運営

3. 川口市

市民の願い



市の収入



() ↑ 【市の働き】 ↓ ()







あすばるの建設・運営

()



()

国・県

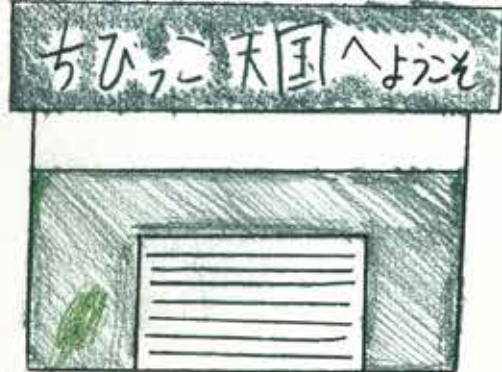
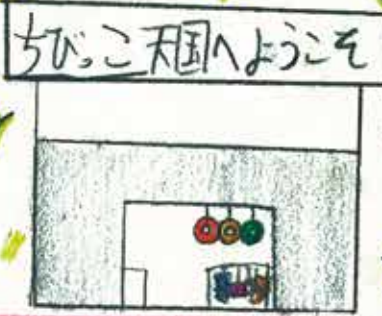
酒々井町への願い		小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい ・ くらしにくい】			
理由			
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
町への質問・提案			
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！			
新聞名	発行日	市町村名	【見出し】
	／		

4 児童作成 まちづくりプランシート「酒々井町への願い」

酒々井町への願い	小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】		
理由	町民同士で交流できる施設があったり、必要な物がそろうから。	
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
・根古谷に下る坂に段差があり、こらびやすくなっている。ケガをした事例がある。		
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！
町への質問・提案	坂を整備してほしい	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！		
・高年齢者や観光する人など利用する人々が少しでも使いやすくするために整備してほしい		
		たくさんの方が使いやすくなる。

酒々井町への願い	小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい○くらしにくい】		
理由	日本一古い町なのにみんなに知られていないので紹介できる場所があればくらしやすいと思う。	
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
「酒々井町とはどんな町？」と聞かれた時に、その町の歴史や良さを知ってもらうための記念館や資料室などをつくとよいのではないかな？		
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！
町への質問・提案	みんなが酒々井町を大好きになる街づくり	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！ 新しい建物を建てるわけではなくプリミエールなどみんなが無料で利用できる所に資料室や記念館などの設置をしたらどうでしょうか？ お年寄りから赤ちゃんまでの幅広い世代が親しめる場所づくり		



酒々井町への願い	小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【 <u>くらしやすい</u> ・くらしにくい】		
理由	自然がたくさんで あるものはあって便利！	
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
もともとちびっこ天国があった土地がもったいない 町のなかに遊べる施設が少ない ちびっこ天国のようなプールがほしい		
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！
		
町への質問・提案	ちびっこ天国のような楽しい施設がほしい	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！		
	きれいな ちびっこ天国の ような プール	
・ <u>流れるプール</u> ・ <u>波のプール</u> ・ <u>子ども用プール</u>		
小さいころから行って いた思い出深いちびっこ 天国でまた遊びたい！		
動物型カステラやアイスの自動 はん売機、ラジオ体操など があるプールがまたほしい！		

酒々井町への願い		小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】			
理由	酒々井町には スーパーや総合公園があるから。		
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！		
総合公園には遊具がなく(こわれまいて)遊ぶ物がなくせっかく広いしはがもったいない!! 思ったのでみんなが使えよう遊具やアスレチックがあるといいと思います。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
町への質問・提案	みんなが遊べる遊具やアスレチックをつくる		
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！			
高さを利用して すべり台をつくる。 (カーブはなくとも大歓迎) ローラコースター 屋根付きの テーブルなど をあく ロープをつたったりのぼりほうをしたり あみものをのぼったりする。			
新聞名	発行日	市町村名	【見出し】

酒々井町への願い	小学校	名前
----------	-----	----

酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】

理由 酒々井町はとても暮らしやすく、治安も良いから。

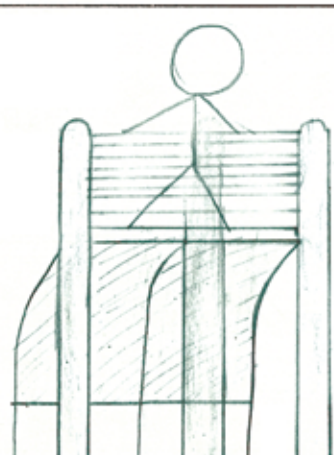
町のくらしの改善点

町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！

健康器具についての子どもへの注意書きを表示してほしい。

★場所がわかるように地図をかこう！

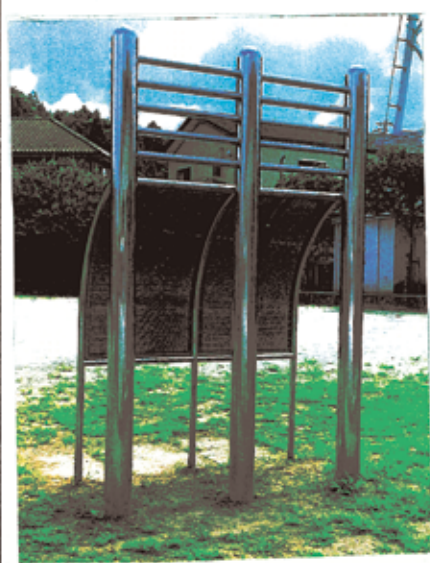
★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！



町への質問・提案

公園に年れい関係なく使える遊具

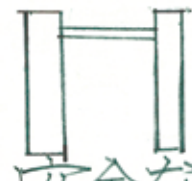
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！をつくった方がいと思う。



注意書きがないと子どもがのぼったりしてしまふな



危険を防ぐための注意書き

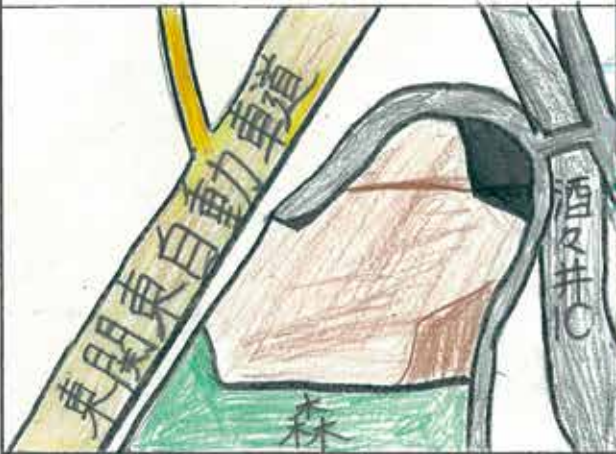
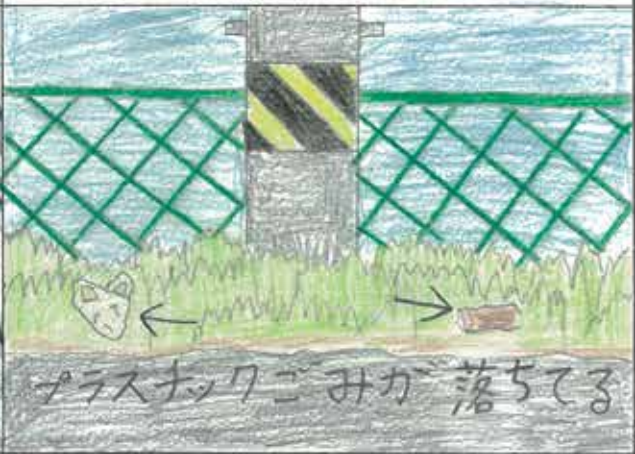


安全な遊具

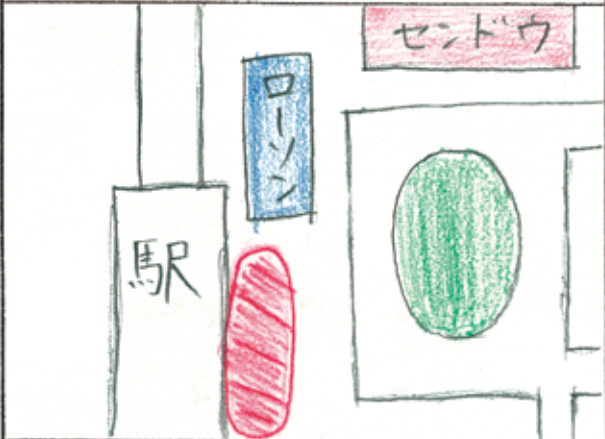
なにもないところに

などをつくしてほしい。

酒々井町への願い	小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【 <u>くらしやすい</u> ・くらしにくい】		
理由	色々な所への交通がべんりなのと、何でも 買うことが できるから。	
町のくらしの改善点	町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
酒々井町を <u>活性化</u> につながる 何か。		
あき土地を使って、 <u>テーマパーク(遊ぶ所)</u> をつくる。		
★場所がわかるように地図をかこう！	★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
町への質問・提案	旧ゴルフ場を使ってキャンプ場をつくる。	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！		
• <u>有料キャンプ場</u>をつくる。 ↓ • <u>お金がたくさん入る。</u> ↓ • 酒々井町の<u>お金</u>になり、<u>もったい</u>な町になる。		

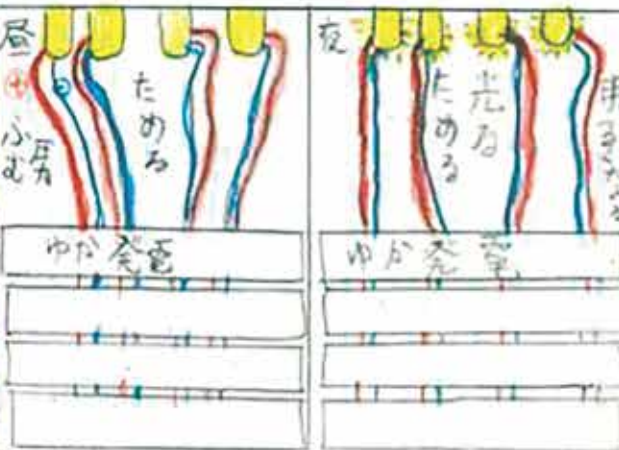
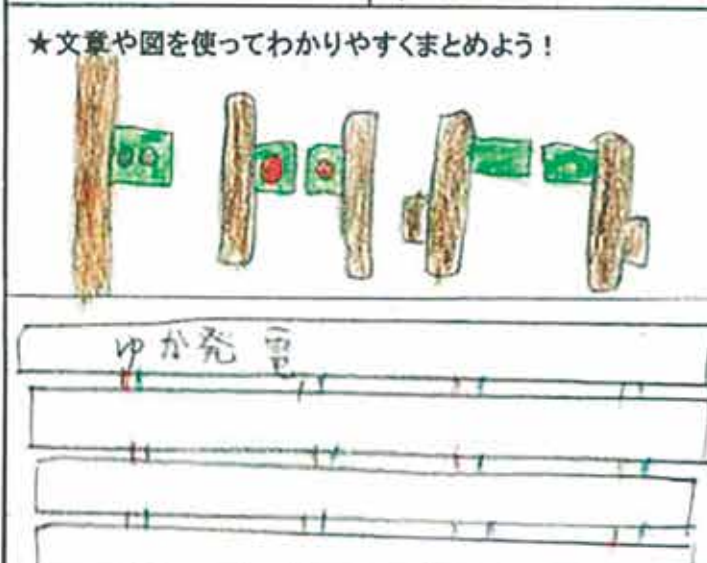
酒々井町への願い		小学校 名前	
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【 <u>くらしやすい</u> ・くらしにくい】			
理由	自然豊かで、水がきれいでおいしい。		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
プラスチックごみのリサイクルセンターをつくりプラスチックごみを再利用する。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
			
町への質問・提案		プラスチックのリサイクルセンターをつくる	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！ ・仙台市では、プラスチック製のバケツや歯ブラシなどの製品プラスチックをおかしのなどのプラスチック製容器包装と一緒に回収・リサイクルしている。 ・酒々井ICの近くの広大な土地につくる。			
			
SDGs	目標No	14	タイトル 海の豊かさを守ろう
目標	プラスチックごみの削減		

酒々井町への願い		小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【 <u>くらしやすい</u> ・くらしにくい】			
理由	近くに、公園、スーパー、お店(ショッピング"しせつ")などが そろっているから。		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
近所の公園などでよくごみがおちているのを見かける。 たまにごみ拾い活動などがあるけれども、ときれいにする ためにはごみ拾いの活動回数を増やすべきに"と思う。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
私がよく見かける場所(近所) 			
町への質問・提案		環境美化運動の強化	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！			
・ゴミひろいのイベントなどを 曜日を決めて行う。 (強制ではない) それが「何ヶ月に〇回」 「第〇,〇曜日」 などを決める。		人が来るためには ・何g,または何kg 拾ったらプレゼント。 ・参加賞などを配る。 ・イベント会場となる 公園のまわりにはたを 置く。 ・チラシを配る	
SDGs	目標No	11	タイトル 住み続けられる町づくりを
目標	すべての人々の適切、安全な住宅 基本的サービスのアクセスを確保する。		

酒々井町への願い		小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】			
理由	公共施設や公園が「多い」から。		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
町民にフードバンクについて知ってもらうために、日にちや曜日を決めて駅前でフードバンクをする。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
			
町への質問・提案		子ども食堂・フードバンク・フードドライブを広げる活動	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！ 子ども… 役場の職員の方に学校に来てもらい、町内で行っている子ども食堂や、フードバンク、フードドライブについて特別授業し、理解してもらう。 地域の人… 回覧板を回したり、スーパーなどにポスターをはらせてもらう。(ポスターは絵や言葉をぼしゅうする) 			
SDGs	目標No	1	タイトル 貧困をなくそう
目標	各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。		

酒々井町への願い		小学校	名前
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【 <u>くらしやすい</u> ・くらしにくい】			
理由	町民との交流が多く、町での行事が多くて楽しいから。		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
若い者との交流は多いですが、自分たちの世代の人や若い世代の方の交流が少ないのでもっと交流を増やしたいと思っています。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
町への質問・提案		小学生～大学生 集中勉強スペース	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！ 私は小学生～大学生の町民が できるに勉強ができる場所があると いいと思いました。ですがただ勉強するのではなく今先生 を目指してる学生の入や自分と近いねんれいの入たろ がわからない所をおしえてくれる場所があると 集中できるし町民との交流が増えていいと思います。			
SDGs	目標No	4	タイトル 質の高い教育をみんなに
目標	4.1 2030年までにすべての子どもが男女くへつなく、適したかつ有効な学習成果をもたず、かつ公平で質の高い初等、中等、高等教育を受ける。		

酒々井町への願い		小学校 名前	
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】			
理由	洋服を買うこともできるし、自然が豊かだから。		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
酒々井町では、太陽光発電しかやっていないから、もっとたくさんの方が協力して、楽しく発電できるように発電遊具を公園につくるとよい。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
町への質問・提案		発電ブランコのような発電遊具をつくらしてほしい。	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！			
		階段には床発電ができるようにして、すべるところにローラーをしきつめてローラーがまわった勢いで発電できるようにして、小さな子もすべれるように両サイドを高くする。発電した電気は、避難所へ送る。	
SDGs	目標No	7	タイトル エネルギーをみんなにそしてクリーンに
目 標		たくさんの方が協力して発電する	

酒々井町への願い		小学校 名前	
酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか？【くらしやすい・くらしにくい】			
理由	水がおいしく自然がきれいだから		
町のくらしの改善点		町の中で町民にとって困ることやあった方がよい物などを調べよう！	
酒々井町には発電している所が少ないから発電できる所をつくる。その中でもくらしやすいうちに発電できるやが発電をする。JR酒々井駅なら朝から夜まで人が通り発電できる。			
★場所がわかるように地図をかこう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！	
			
町への質問・提案		JR酒々井駅にやが発電をついたらいいと思う。	
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！		やが発電は1日あたり豆電球が1〜2個は少間ぐついているので朝のうちにためておいてくらくらな、たとき、JR酒々井駅は1日あたり約200人乗っている、たから約45分間つく。そして降りるときはためたうなときにかう。あまたら外も明るくして町を明るくして安心させる。	
			
SDGs	目標No	7	タイトル エネルギーをみんなにそしてクリーンに
目標	発電をして町を明るくして安心できる町にする。		

5 授業の実際

ふるさと学習を通した主権者教育【学習の流れ】

過程		学習内容と育てたい子どもの姿（心情・意識）
ふるさと学習	知る	【酒々井町のよさ】「ふーんそうなんだ!」「そうだったのか!」 町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（国指定史跡「墨古沢遺跡・本佐倉城跡等」）
	持つ	【愛着・誇り】「酒々井っていいな!」「すごいんだ!他のまちの人にも伝えたいな」 【所有格意識（My まち・Our まち）】「自分の町を大切にしたいな、もっといい町にしたいな」
	育む	【ふるさと意識（参画・定住）】「町のために何かできることをしたいな」 「この町に住み続けたいな」「町に戻ってきて住みたい」
問題解決的な学習（政治学習）	つかむ	【現状認識】「今のわたしのくらす町の環境は・・・だ」 【当事者意識】「わたしにとって、この町の環境は・・・だ」 【切実感】「このままではよくない」「なんとかしたいな」「もっとよくしたい」 【問題意識】「町のくらしを、よりよくするにはどうすればいいのかな?」 【主体的な意識】「わたしの町だから、町の未来をすすんで考えよう!」
	調べる	【町環境調査】 「町をよりよくするために、今の町の環境の様子を調べよう!」 ⇒自分たちの暮らすまちをくらしの視点で見直して、まちのよさや改善点に気づく。 【NIE 活用（教育に新聞を）】⇒他市町村の情報を入手し、多面的多角的な視点で調べる。 「他のまちではこんな様子なんだ!自分の町ではどうかな?」 「他のまちではくらしをよくするために・・・をしているのか!町でもできるかな?」 【SDGs（持続可能な開発目標）の視点】⇒地球市民的な視点で町の環境を調べる。 「SDGs の視点で町の環境を見直してみよう!」
	まとめる	【まちづくりプラン（酒々井町への願い）シートの作成】 「他のまちの取組を参考にして、酒々井町をよりよくするためのプランを考えよう!」 「SDGs の視点から、酒々井町でもできるプランを考えよう!」 【学級内での発表】 「酒々井町の現状は・・・です。町をよりよくするために・・・を提案します。」 ⇒作成した「酒々井町への願い」シートを提示しながら、プランを発表する。
主権者教育	発展	【選挙の仕組み】 ⇒選挙管理委員会の職員の説明から、選挙と投票の仕方について知る。 【こども模擬選挙】 ⇒町民の願いの実現を考えて、公共性のあるプランを選び、公正に投票する。 【こども模擬議会】 ⇒こども模擬議会の代表者として選ばれたことを自覚し、終了後に学級内で報告する。 【参画意識の啓発】⇒【情報発信】 ⇒町ふるさとまつりで「酒々井町への願い」シートを展示し、町民に情報発信する。 【主権者意識の涵養】 ⇒町の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動できるようにする。

「酒々井のまちづくり」実践事例1

1	「酒々井のまちづくり」出前授業	7月上旬	・社会科「わたしたちの生活と政治」（町民の願いを実現する政治）の学習で、企画財政課の職員が公共施設「プリミエール酒々井」の建設の経緯について説明し、町民の願いを実現するための行政の仕組みについて解説します。 ・冊子『しすいのまちづくり』酒々井町総合計画く子ども版＞を使って、酒々井町の行政の計画について説明します。
2	NIE活用（教育に新聞を）調査活動	7月中旬	・県内の他市町村のまちづくりに関する新聞記事を「行政、環境、教育、生活、観光、産業」の分野別に整理し掲示することで、児童のまちづくりプランの参考資料とします。 ・児童は様々な新聞記事を読み、関心を持った記事に付箋紙を貼り、その記事の内容をプランに生かすなど、新聞を通して多面的多角的な視点でまちづくりについて考えるようになります。
3	町の環境についての調査活動	8月中	・NIE活用（教育に新聞を）による県内の他市町村のまちづくりに関する新聞記事やSDGs（持続可能な開発目標）の視点で町の環境を見つめ直して、自分たちのまちづくりプランの参考資料とします。 ・SDGs3「すべての人に健康と福祉を」とSDGs10「人や国の不平等をなくそう」の視点で、役場内のバリアフリー環境について調査活動をしました。
4	社会福祉協議会への調査活動	8月中	・SDGs（持続可能な開発目標）の視点で町行政の取組内容について調査をして、自分たちのまちづくりプランの資料とします。 ・SDGs1「貧困をなくそう」の視点で、町のフードバンクやNPO法人による「子ども食堂」の取組について、社会福祉協議会の職員の説明を受けました。 ・調査終了後、調査内容を新聞記事や資料を参考にして自分のまちづくりプランを考えます。

「酒々井のまちづくり」実践事例2

5	「まちづくりプラン」の発表活動	9月上旬	・夏季休業中に各自で調べた町の生活環境の課題から考えたまちづくりプランについて、「酒々井町への願い」シートにまとめて、学級内でパソコンを使って発表し合います。 行政の仕組みについて学習した後なので、まちづくりの視点で自分たちの生活に関わる公園の整備や通学路の安全等についての各自のプランを主体的に発表することができました。
6	選挙の説明→こども模擬選挙	9月上旬	・選挙管理委員会の職員から選挙の仕組みや投票の仕方について説明を受けた後に、学級毎に「酒々井町への願い」シートの内容を基に、実際の記載台と投票箱と実物を模して作成した投票用紙「こども模擬議会代表者選挙投票」を使用して、こども模擬議会の代表者1名を選出します。 ・本格的な選挙を模擬的に体験することで、政治に主体的に関わる町民としての資質の育成につながる主権者意識を育むことができました。
7	こども模擬議会	10月中旬 (コロナ禍前)	・総務課と連携して、各小中学校の代表児童・生徒の15名が一般質問を行います。小学校は選挙で選ばれた5名が、①体育館を健康でより安全な避難所にする。②公民館を子ども達が自由に利用できる施設にする。③公園に発電ブランコを設置し災害時の電源を確保する。④駅の空きスペースに床発電を使った施設をつくる。⑤公園にリサイクルボックスを設置する。のプランについて町当局に質問をしました。 ・選出されなかった内容的に似ている児童のプランも取り入れて、参加意識を持たせました。
8	町ふるさとまつりでの情報発信	11月下旬 (コロナ禍前)	・児童作成の「酒々井町への願い」シートは、経済環境課と連携して、多くの町民が集まる「ふるさとまつり」の会場となる中央公民館に展示しました。児童のまちづくりプランに対して、参観した町民の意見や感想を付箋紙に記入し、模造紙にはっていただくことで、双方向性化を図りました。このことは、まちづくりに対する町民に向けたメッセージともなりました。 ・酒々井町にあるアウトレット隣の情報発信館「まるごとすい」にも展示して、町外の買い物客に対しても情報発信をしました。

学校⇔教育委員会（学校教育課）⇔町行政機関

機 関	連 携 内 容	
1	公共施設の建設過程・町総合計画の説明	【場所】 各小学校体育館・特別教室
企画財政課	  【7月上旬】	①担当職員に酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」を提示して、学習のねらいと授業の進め方について説明する。 ②学校に授業の進め方と場の設定について説明し、実施日の日程調整を行う。
2	児童からの町行政に関する質問対応	【場所】 酒々井町役場
役場関係課	  【8月中】	①学校から提出された「町役場への質問」シートの内容を基に担当課を選定して、担当者に質問内容を説明する。 ②児童の家庭に連絡して、実施日の日程調整を行う。
3	選挙の仕組みの説明	【場所】 各小学校体育館
選挙管理委員会	こども模擬選挙   【9月上旬】	①選挙管理委員会に、投票箱・記載台の借用と講師依頼をする。 ②担当職員に酒々井学プログラム「酒々井のまちづくり」を提示して、学習のねらいと授業の進め方について説明する。 ③学校に授業の進め方と場の設定について説明し、実施日の日程調整を行う。
4	こども模擬議会	【場所】 町役場議場
総務課	  【10月中旬】	①総務課が学校に、こども模擬議会開催の協力依頼を行い、学校に事業内容の説明をする。 ②代表者の質問書を集約し、答弁書を作成する。 ③1週間前のリハーサルを行った後に、こども模擬議会を開催する。（議会事務局）
5	町ふるさとまつり・情報発信館での展示	【場所】 中央公民館・まるごとしすい
経済環境課	  【11月下旬】	①施設利用の依頼を行い、展示作業を行う。 ・ふるさとまつり（11月下旬） ・情報発信館「まるごとしすい」（12月上旬～） ②学校便り（学校）や町広報紙（企画財政課）を通して、保護者や町民に案内する。

6 酒々井学プログラム 中学校3学年「酒々井の地方自治」

(3時間扱い)

社会科（公民）		テーマ	酒々井の地方自治
ねらい	社会科（公民）「地方自治と私たち」（①わたしたちの生活と地方自治・②地方自治の仕組み・③地方財政の仕組みと課題・④住民参加の拡大と私たち）で、地方自治の基本的な考え方について理解し、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。 【資料】町HP（町勢便覧）・広報ニューしすい・議会だより・くらしの便利帳（130周年）		
過程	学習活動 と ・内容	「発 問」 と ・指 導	資 料
つかむ 1	1. 公共の意味を確認し、町の公共事業について発表し合う。 ・学校・ゴミ処理・図書館・公園・道路・水道・災害対策	「公共の意味を知っていますか？」 ・社会一般・おおよけ・社会全体。 「わたしたちのくらしに関わる公共の仕事をシートに書き出しましょう」 「公共事業はどこで行っているのかな？」 ・国/都道府県/市町村/特別区 「この中で、町で行っている公共事業はどれでしょうか？」 ・国と県と町の事業の分け方や地方分権について考えさせる。	・教科書 ・ワークシート
	2. 地方公共団体（地方自治体）について知り、各自の疑問から学習計画を立てる。 ・国から自立した運営の場合	地方公共団体はどのような仕事をしているのだろうか？	
調べる 1	3. 町役場の仕事の内容について予想する。 ・役場組織（業務内容） ・町の公共施設の建設過程	「町役場はどのようなことをしているのか？」 ・小学校の「酒々井のまちづくり」で学習した公共施設の建設の流れを想起させる。	・「プリミエール酒々井建設までの流れ」シート
	4. 町役場内の組織（部署）と業務内容について知る。	「くらしの便利帳や町役場のWEBページの町勢便覧を調べましょう」	・町勢便覧 ・くらしの便利帳
調べる 1	5. 町民の願い（公共事業）が実現する過程について調べる。 ・地方財政の仕組みを知る。	「町民の願いを実現するにはどのようなことが必要なのか？」 ・地方議会（議員）・首長・税金・予算	・広報ニューしすい（4月号）当初予算
	6. 酒々井町の現状を考える。 ・町のよい所と課題	「町の環境を調べて、くらしをよりよくするための方法を考えましょう」	・ワークシート
発展 1	町民としての政治参加にチャレンジしてみよう！		
	7. 各自①問題把握②問題分析③意思決定④提案の流れで、発表し合う。 8. こども模擬議会の代表者を選挙で選出する。 ・3学年学級内で選挙➡個人 ・3学年全体で選挙➡生徒会	「町の環境の現状から、町をよりよくする方法を発表しましょう」 ・各自シートに記入して発表させる。 「町民が納得する提案かどうかよく考えて、投票用紙に記名して投票しましょう」 ・模擬議会での代表者を選挙で選ぶ。 ・実態に応じて個人か生徒会か選択する。	・教科書P110 公民にチャレンジ ・投票箱 ・記載台 ・投票用紙

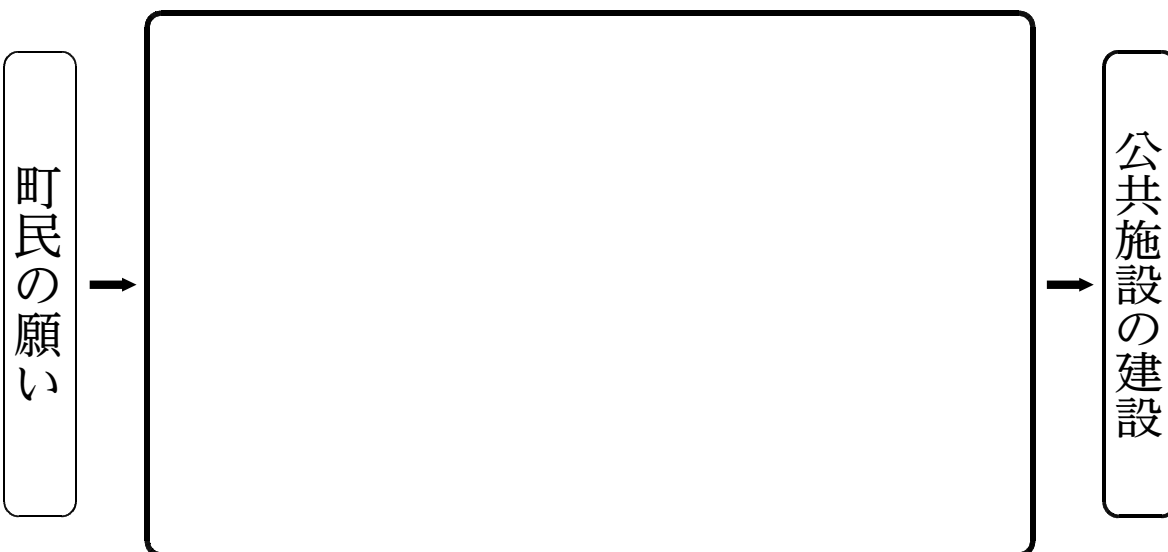
公民にチャレンジ・（主権者意識を持とう！）

1. 公共とは？【 】のことである。

2. 公共の仕事（公共事業） ※町で行っている事業に○印をつけましょう！

3. 町役場の組織（どんな課があってどんな仕事をしているのかな？）

町の公共施設の建設過程（願いが実現されるまでの流れを書きましょう！）



酒々井町への提案		酒々井中学校	名前	
問題把握 町のよい所・課題【 グローバル化・情報化・少子高齢化・持続可能な社会・人口 】				
現状				
問題分析	現状に対してまちづくりの実態（どのようなことが行われているのか）を調べよう！			

意思決定	問題に対してどのような取り組みが有効か、自分の考えを決定しましょう！			

★場所がわかるように地図を描こう！		★状況がわかるようにイラストや写真を入れよう！		
町への質問・提案				
★文章や図を使ってわかりやすくまとめよう！				

ふるさと学習を通した主権者教育の推進

小学校6学年 酒々井学プログラム

「酒々井のまちづくり」の実践



酒々井町教育委員会

一場 郁夫



1

位置



しすいまち
酒々井町



町制施行 明治22(1889)年[132周年]

人口 20,495人 (R3.11.1 現在)

面積 19.01 km² (千葉県で2番目に小さい)

学校 小学校2校・中学校1校



人 自然 歴史が調和した
活力あふれるコンパクトシティ

2

歴史・文化・自然



国指定史跡「墨古沢遺跡」(旧石器時代)



町指定文化財「上岩橋の獅子舞」



西井戸の里(谷津田・里山)



国指定史跡「本佐倉城跡」(戦国時代)



酒々井百話「酒の井伝説」



里山の「ヒメアカタテハ」

3

主権者教育について

主権者とは？

自分たちは社会に生かされているという受動的な意識から、
自分たちが社会をつくっているという**主体的な意識をもって**
社会に参画する者である。

主権者教育とは？

国や社会の問題を**自分の問題としてとらえ、自ら考え、自ら**
判断し、行動していく主権者を育成していくこと

「お題目」としないために・・・



酒々井学について

酒々井学って何？ ➡ ふるさと学習

👉 酒々井町の地域素材を活用して

教科等の学習内容と関連づけて作成した

学習プログラムを通して実践する

地域学習・地域活動



ねらいは？

酒々井町の歴史・文化・自然等について知ることで、
「ふーんそうなんだ」・「そうだったのか！」



郷土に対して愛着と誇りをもち、



「いいな！」・「すごいぞ！」

町民としてのふるさと意識(参画・定住)を育む。



「町のために何かしたい」・「この町に住みたい」

教科等との関連は？

【小学校学習指導要領(社会)目標】

(3) 社会的事象について、**よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う**とともに、**多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚**・・・を養う。

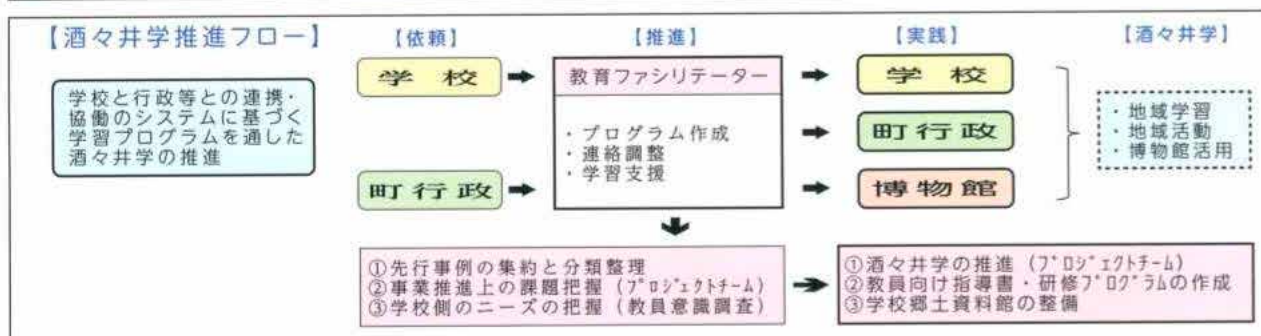
👉 社会科の地域学習と同じなの？

👉 主権者教育にも通じる。



酒々井学の推進方法

過程	内容	目標	学習	分野	主な事業	活動	活動内容(例)
知る	酒々井町の ・歴史 ・文化 ・自然等	町のよさを 知る	酒々井学プログラムの実践	学校教育	・学習プログラムの作成 ・教員研修の推進 ・小学校郷土資料館の整備 →酒々井学コーナーの設置 ・副読本の作成	地域活動への参加・参画	○酒々井学の発展的な活動 ・環境保全活動 ・郷土芸能の参加 ・歴史ガイド作成
持つ	郷土愛	町に対する 愛着・誇り を持つ		社会教育 生涯学習	・子ども向け教育普及事業 →夏休みこども教室等 ・青少年おもてなしキャンプ		○町主催の事業への参加 ・千葉氏まつり ・ふるさとまつり
育む	ふるさと意識	町への 定住意識 参画意識 を育む		町行政	・酒々井のまちづくり →町の行政 ・酒々井町こども模擬議会 →町の政治		○地域行事への参加 ○町行政と連携した 協働事業への参画 ・町づくりの提言

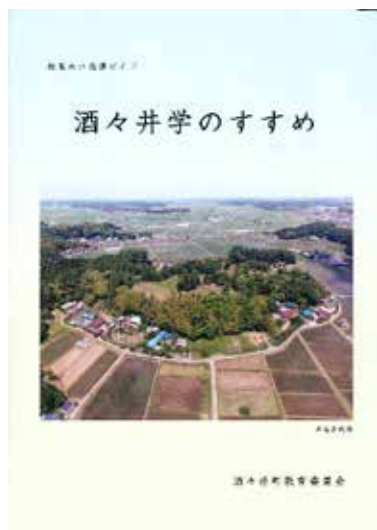


教員・子ども向け資料の作成

教員向け指導ガイド
「酒々井学のすすめ」(2019年)

子ども向け副読本
「いいね！酒々井」(2020年)

指導資料集
「酒々井発見伝」(2021年)



学校郷土資料館の設置(各小学校)



酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」①

⇒「学習プログラム」

酒々井学を通した町民意識・ふるさと意識の涵養 ⇒ 愛着・誇り

令和元(2019)年度 酒々井学プログラム(26案)

学年	テーマ	学年	テーマ
小1	酒々井のしぜん	小5	酒々井の里山
小2	わたしたちの町はっけん	小6	酒々井の土地のつくり
小3	ハーブの町 酒々井	小6	酒々井の歴史発見!
小3	昔のくらし(郷土館・歴史館)	小6	大むかしの酒々井
小3	地域に残る古いもの	中学	本佐倉城(武士の世)
小3	俳句で酒々井!	小6	江戸時代の酒々井
小4	ホタルの里(郷土館)	小6	酒々井の歴史物語
小4	酒々井の生き物(大庭園)	小6	酒々井のまちづくり
小5	酒々井町を支える人々	小6	酒々井の仕事人(キャリア講座)
小5	酒々井町ベストスリー	小6	酒々井の町おこしプラン
小5	酒々井の米づくり	中学	酒々井の歴史
小5	酒々井の食(郷土館・歴史館)	中学	酒々井町の魅力アップ
小5	酒々井の水環境(印旛沼)	中学	酒々井の景観

小学校1学年から学習プログラムで学ぶ
教科学習と関連づけた地域学習

酒々井学プログラム (4時間扱い) 【6学年】			
社会科・総合	テーマ	酒々井のまちづくり	
ねらい	社会科「わたしたちの生活と政治」(町民の願いを実現する政治)で町の政治の働きに関心を持ち、生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していることを理解する。町のくらしの現状に対して関心を持ち、町民としての参画意識に基づく活動を行う。(主権者教育) 【資料】しすいのまちづくり・広報ニューしすい・議会だより・町HP・町制施行125周年		
過程	学習活動と内容	「発問」と指導	資料
つかむ	1. 酒々井町に対する願いを発表し合う。 ・くらし・福祉・教育・観光・産業・環境・防災・安全等 2. 公共施設を建設するまでの流れを考える。 ・各自の考えを黒板で説明し合う。 【AL】	「みなさんは酒々井町に対してどのような願いを持っていますか?」 ・アンケートをもとに発表させる。 「町民の願いはどのように実現されるのでしょうか?」 ・公共施設を建設するという想定でシートに記入させる。	「酒々井の町づくり」シート
調べる	3. 教科書の事例をもとにワークシートに記入する。 ・町民の願い ・町役場の働き ・町議会の働き ・税金の働き 4. 「プリミエール酒々井」を事例に建設までの経緯を調べる。 ・ワークシートに記入する。 5. 町民の願いが実現されるまでをフローチャートにする。 6. 酒々井町のまちづくり計画について説明を聞く。	「教科書の事例をもとに公共施設が建設されるまでの流れをまとめてみましょう」 ・記入内容を発表し合い、拡大したワークシートを完成させる。 「役場の方からプリミエール酒々井が建設されるまでの流れを説明してもらいます」 ・他市の事例と比較して確認させる。 ・プリミエール酒々井の事例をもとに作成させる。 「酒々井町のまちづくりの計画について、説明してもらいます」	・企画財政課の職員 ・ワークシート
まとめる	7. 各自の考えとその理由をワークシートに記入する。 ・くらしやすい(町のよさ) ・くらしにくい(町の改善点) 8. 各自、町内を視察して改善点をワークシートに記入する。	「酒々井町のくらしやすさについてシートに書きましょう」 ・改善点を整理して、町をよりよくしたいという視点で調査計画を立てさせる。 「夏休みに町民のくらしの目録で町を視察して改善したいことをまとめましょう」	・「酒々井町への願い」シート ・町制施行125周年
発表・発表	9. 各自の考えを発表し合う。 ・代表者を選出する。	「酒々井町のくらしをよくするための方法について考えよう!」 ・選挙管理委員会の方の説明を聞く。 ・模擬議会での発表者を選挙で選ぶ。	・しすいのまちづくり(第5次町総合計画) ・13 ・記載台 ・投票箱

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」②

⇒「町行政について知る」

町民の願いはどのように実現されるのだろうか?

しすいのまちづくり(子ども版)

① 公共図書館建設の流れ(企画財政課)

② 町の総合計画の説明(企画財政課)



酒々井町は町民にとってくらしやすい町だろうか?

(問題解決的な学習)

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」③ →「NIE（教育に新聞を）」

③ 新聞記事を通して県内の他自治体（市町村）の様子や取組を知る。

④ 自分のまちの様子について、まちづくりの視点で見直す。

⑤ 自分が見たまちの様子について、役場での取組について調べる。

酒々井のまちづくり	NIE活用マニュアル								
★「まちづくり」は、他のまちの様子や取組を知って、広い視野（見方・考え方）で考えることが大切です。新聞記事はそのヒントをくれる大切なアイテムの1つです。									
1. 記号の説明									
<table border="1"> <tr> <td>A 朝日新聞</td> <td>Y読売新聞</td> <td>M毎日新聞</td> <td>T東京新聞</td> </tr> <tr> <td>N 日本経済新聞</td> <td>S産経新聞</td> <td>C千葉日報</td> <td>K日刊工業新聞</td> </tr> </table>		A 朝日新聞	Y読売新聞	M毎日新聞	T東京新聞	N 日本経済新聞	S産経新聞	C千葉日報	K日刊工業新聞
A 朝日新聞	Y読売新聞	M毎日新聞	T東京新聞						
N 日本経済新聞	S産経新聞	C千葉日報	K日刊工業新聞						
2. テーマの説明									
行政・・・役所（役場）で市民（町民）の生活をささえるための政治を行うこと 環境・・・生き物などのすみ場所や人間の生活の場所（自然環境・生活環境・SDGs） 教育・・・学習や知識などが身につくように教えること（学校・公民館・博物館など） 生活・・・人間が生きていくために必要なこと（食べ物・水道・道路・安全・交通など） 観光・・・まちの自然、歴史や文化などのよさを観光に役立てること 産業・・・まちの特色ある農業や商業や工業などを広めてさかんにすること									
3. 新聞資料の見方									
(1) 自分が興味を持ったテーマを見つけよう！ (2) テーマにある新聞の見出しを読み、関心を持った新聞記事に付せんをはりコピーをしよう！ (3) 必要な情報を記入しよう！ <table border="1"> <tr> <td>①新聞名【 】</td> <td>②日付【 年 月 日 】</td> <td>③テーマ【 】</td> </tr> <tr> <td>④市町村名【 】</td> <td>⑤見出し【 】</td> <td></td> </tr> </table> (4) コピーした新聞記事に、わからない言葉や大切な言葉をマーカーで色分けしてみよう！ (5) マーカーを引いたわからない言葉などは、辞書や辞典などで調べよう！ (6) くわしく知りたい場合は、新聞記事の情報から本や電話やインターネットなどで調べよう！ (7) 自分のまちではどうか、まちづくりの視点でまちの様子を見てみよう！ (8) 自分が見たまちの様子について、役場（行政）での取組を市のWEBや広報誌等で調べよう！ (9) 自分で見たまちの様子と役場の取組から、自分で考えたまちづくりプランを作成しよう！		①新聞名【 】	②日付【 年 月 日 】	③テーマ【 】	④市町村名【 】	⑤見出し【 】			
①新聞名【 】	②日付【 年 月 日 】	③テーマ【 】							
④市町村名【 】	⑤見出し【 】								



新聞記事を読む児童



役場での取組を調べる児童

15

NIE活用 (千葉日報2021.6.30・東京新聞2021.5.9)





町職員による出前講座の感想を述べる大室台小の6年生＝8日、西々井町



10. *Chlorophyll a* (Chl *a*)

酒々井大室台小

故郷への理解深める

[illegible]

年 とし

6 「ごめいじょうだ」。03年オーストラリアの雑誌

2

ある。考えたプランは毎

ちの代表による経営委員会

[illegible]

「これは、アノミサの第一
／＼と進んでいくように

ター整備がある。

まちづくり 6年生が学ぶ

ちびつりや海苔、環境の
よどみとさまざまな風景・修景の
理念を目標を「一つ」とし、「
明」武蔵野放牧場にははるかに
あることが分かった。私はほ
ろろと昔を憶慮し、旅りの
若い世帯主、なんざん
の心算を知ってうれ
えながら、

町には、6年市町の
開闢以来出し、自ら考
えたタイプや改良を出
すという意味での問題が
ある。考えた方は、毎年
発表されている小中学生
の代表として掲載されて
可なり町執行部から表で
きる。過去に比べて大
きく、過去に比べて大
きな、小学校校舎上
への緑化パネル工費一
へらと井沢の土ペー
ヤ 整備がある。

行政のまちづくりの出前授業

企画財政課職員による説明

1. 公共図書館建設の流れ
2. 酒々井町総合計画

学校教育課職員による説明

1. 副読本「いいね！酒々井」を活用した課題「酒々井のまちづくり」プランの作成方法
2. 県内の他自治体(市町村)の様子と取組に関する新聞記事の活用方法
→NIE(教育に新聞を)活用

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」③

➡「問題解決能力の育成」

- ⑥ まちの環境における「自分たちの暮らし」に対する問題意識

- ⑦ ➡調査活動（夏季休業中）➡現状認識➡課題発見➡改善プラン

- ⑧ ➡ 「酒々井町への願い」 シートの記入

児童作成シート

東日本大震災の被害
 大きな地震、津波、原発の事故
 津波が来た時に避難して安全な場所に移動することが大切です。もしも地震や津波が来た時に
 安全な場所に避難することが大切です。

3月11日 東日本大震災
 東日本大震災の犠牲者の方々に哀悼の意を表します。また、被災された方々に
 一日の休養を願います。

3月11日は東日本大震災の日です。この日は、東日本大震災の犠牲者の方々に
 一日の休養を願います。

3月11日は東日本大震災の日です。この日は、東日本大震災の犠牲者の方々に
 一日の休養を願います。

3月11日は東日本大震災の日です。この日は、東日本大震災の犠牲者の方々に
 一日の休養を願います。

2011年3月11日

[illegible][illegible]

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」④

→「主権者意識の育成」

⑨ 学級毎に全員で、「酒々井町への願い」シートの発表活動



- ①シートを拡大投影して発表する。
- ②名簿を利用したチェックシートを使い、投票したい内容をチェックして聞く。
 - ・必要性
 - ・実現可能性

⑩ 「こども模擬選挙」で「こども模擬議会」代表者の選出



- ①選挙管理委員会から選挙の仕組みと投票の仕方について説明を聞く。
- ②公正な投票のための事前指導を行う。
 - ・多くの町民の願いでもあるか？
 - ・町の予算を使う事業としてふさわしいか？

19

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」⑤

→「参画意識に基づく提案」

⑪ 「こども模擬議会」での町行政への質問・提案



- ①町行政への要望だけでなく町民の一人として、参画意識に基づく提案にしたい。
- ②質問内容が伝わるように資料（フリップ）を提示してもよい。

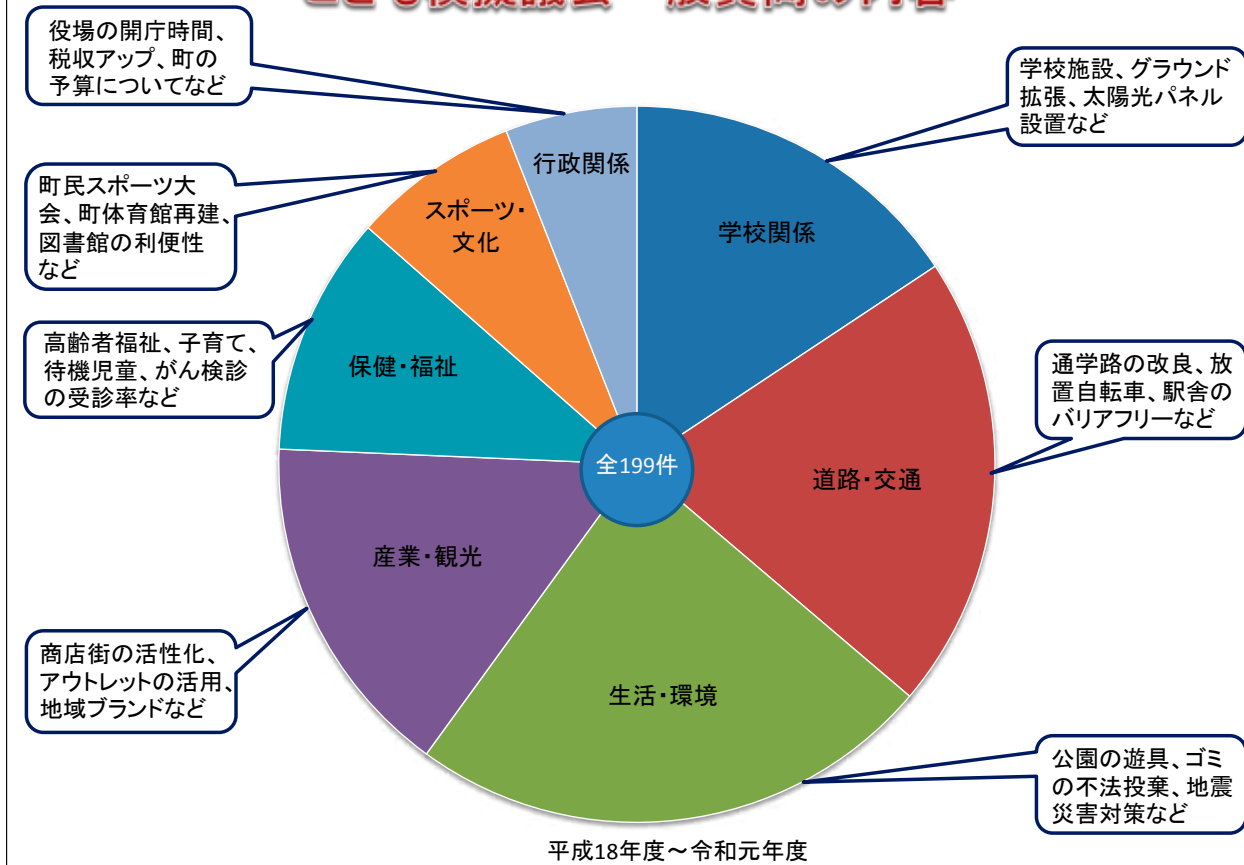
⑫ 町「ふるさとまつり」での「町への願い」シートの展示→町民への広報



- ①公民館のロビーに児童作成のシートを展示し、町民向けに広報（情報発信）する。
- ②参観者は、付箋紙に感想を記入して掲示板にはることで双方向性を図る。

20

こども模擬議会一般質問の内容



こども模擬議会の一般質問から実現した町事業

狭い通学路で、車とすれ違うときに怖い思いをしています。
[H21年度]

カラー分離舗装された通学路 [H25. 10]

全小中学校に太陽光発電設備設置 [H26. 3]

地球エコロジーのために、学校の屋上に太陽光パネルを設置してはどうか。 [H22年度]

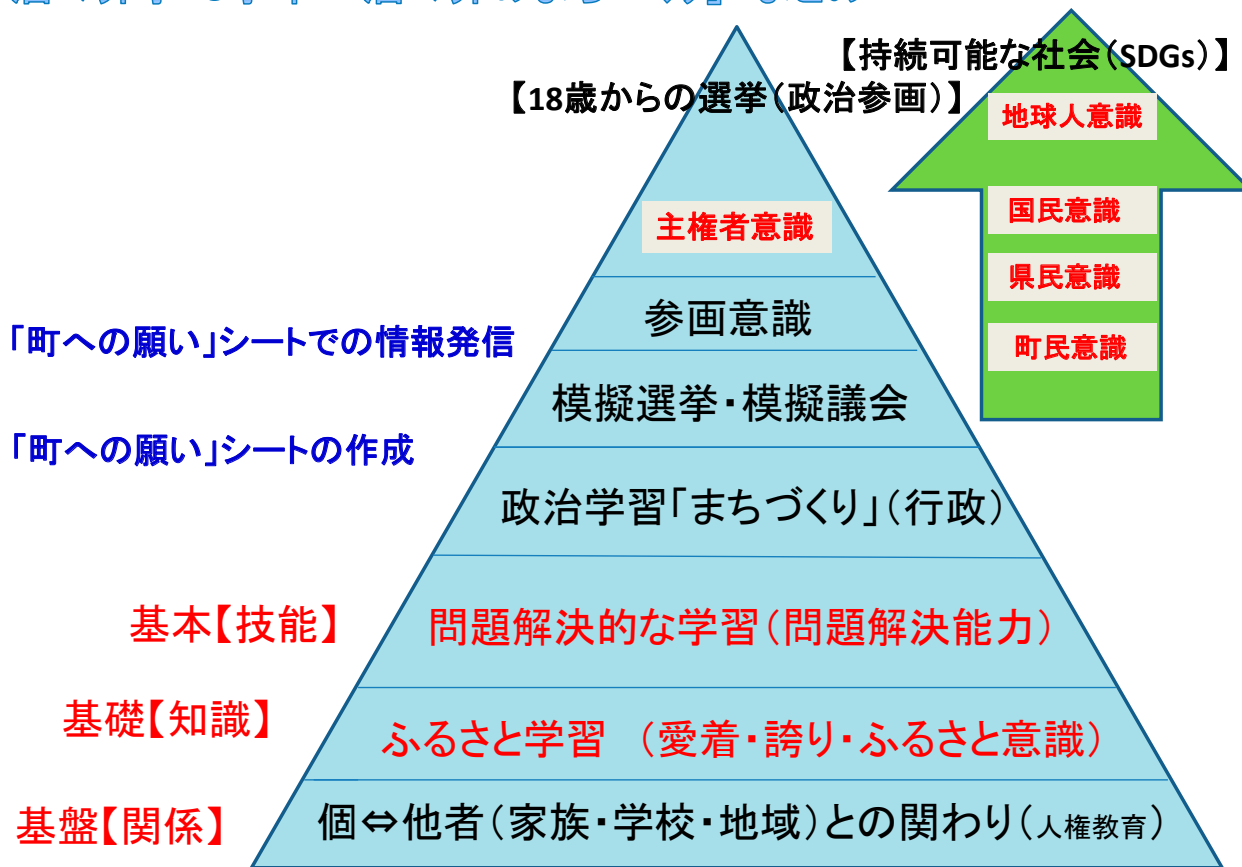
JR酒々井駅・京成酒々井駅の駅舎にエレベーター設置 [H23. 1]

お年寄りに優しい町にするために、駅にバリアフリーを取り入れてほしい。
[H19年度]

ファミエルでインターネットを利用して本を借りられるようにしてほしい。
[H23年度]

ファミエルにインターネット貸出予約システム導入 [H25. 2]

酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」 まとめ



酒々井学 6学年 「酒々井のまちづくり」成果と課題(今後の展望)

① 成 果

1. 町民意識の涵養

- ・自分がくらす町的环境について、町民目線で現状を見て調査をすることで、町民意識が育まれた。(町民的資質の育成)

2. 主権者意識の涵養

- ・「酒々井町への願い」シートで全員が提案し、模擬選挙を通して代表者を選出するという過程を通して、主権者意識が育まれた。

② 課 題 (今後の展望)

1. 参画意識の啓発 ➡ 所有格(Myまち・Ourまち)の心情へ

- ・「酒々井町への願い」シートの内容で、町をよりよくするために、自分にできることを実践しようとする意識化を図る。

2. 小中連携への対応(学習の系統性)

- ・中学校 社会科(公民)「地方自治と私たち」での実践を推進する。
➡ **中学3学年 学習プログラム「酒々井の地方自治」の実践へ**

こども模擬選挙・議会

10月16日、こども模擬議会が開催されました。

出席したのは、町内の小学校で9月に行われたこども模擬選挙で選ばれた児童5人と、酒々井中学校の生徒9人。町内小学校の「酒々井学」の一環として行われたこの取り組みについて特集しました。

この学びを通して、児童たちがより深く学習内容を理解するとともに、町の暮らしに

地域社会すべてが学びの素材
「酒々井学とは」



模擬議会の会場の様子



選挙で代表に選ばれた熊岡大翔くん

関心を持ち、主体的に社会参画する意識を持てるようになることも期待されます。

子どもたちの目線で
地域課題を発見
「こども模擬選挙」

夏休み中に酒々井小学校と大室台小学校の児童たちは、各自で町の生活環境を調べ、現状と課題を調査。それに対する改善案を考え、9月にクラス内で発表を行いました。

発表では、「公園や通学路の環境整備」といった、児童たちなりの視点で日々感じている課題が多く挙げられました。また、「町の歴史を紹介する設備を作って人口増加を目指す」、「災害時のために公衆電話を公園に設置する」など、近年の社会問題に着目した意見も見られました。

実際の議場で
町執行部へ堂々と質問
「こども模擬議会」

各小学校から選出された児童5人に酒々井中学校の生徒9人が加わり、実際の議場で一般質問を行いました。子どもたちの質問に答えるのは町長、副町長、教育長をはじめ、町の職員たち。当日は、傍聴人や各種メディアも集まり、緊張感あふれる中、子どもたちは自分たちの意見を堂々と発言していました。

一般質問の後、酒々井小学校の宮原悠さん、林音芭さん、



本物の投票箱で選挙を体験

発表が終わると、児童たちは実際の選挙で使われる記載台・投票箱を使用し、模擬的に選挙を体験。こども模擬議会に出席する代表者を選出しました。



こども議員の皆さん



再質問をする林音芭さん

藤野杏菜さんは、「クラスの発表の時に自分よりいい意見だなと思った人が他にもいたから、選挙でまさか自分が選ばれるとは思わず驚いた。」「自分の質問に答えがもらえてうれしかった。答えを聞いて、また新しい疑問も浮かんだ。」などと感想を話してくれました。

子どもたちにとって、行政のしくみを学ぶと同時に、地域社会について考える良い学びの場となったようでした。

〈広報ニューしすい No.624 より転載〉



クラスの友だちが作ったシートを見る児童



初めて使う選挙の記載台



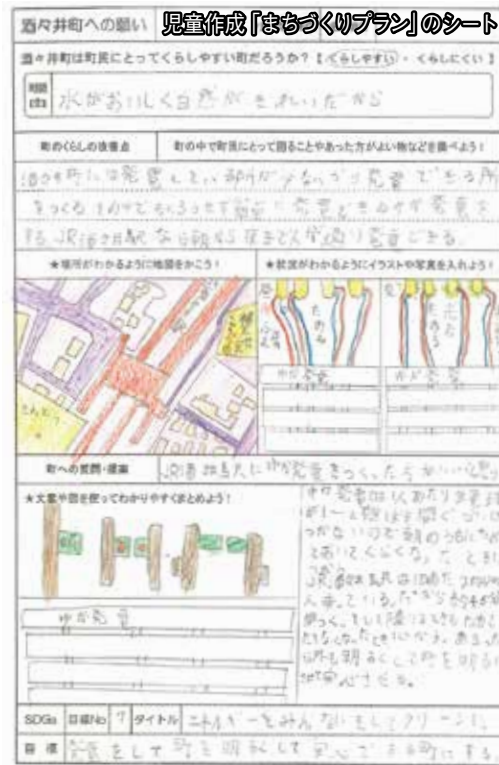
児童からの質問に答える町長



こども模擬議会（令和元年の様子）



『酒々井のまちづくり』の授業



地域の素材を子どもたちの学習教材に 酒々井の教育 酒々井学

小学校六年生が学ぶ政治学習

文部科学省が定める学習指導要領には、児童生徒が学習する各教科ごとの目標や内容が学年別に示されています。

小学校六年生社会科の単元「わたしたちの生活と政治」（町民の願いを実現する政治）では、「政治が私たちの暮らしにどのように関わっているのか、主体的に学習し、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う。」ことを目標の一つにしています。

町内の小中学生は、町独自の学習プログラム「酒々井学」でさまざまな学習をしています。酒々井学とは、町内の自然・歴史・文化や生活環境・施設などを教材化し、教科などの学習内容と関連づけて実践する地域学習です。

今回は、小学校六年生の児童が酒々井学を通して、どのように政治学習に取り組んでいるのかを取材しました。

酒々井学で学ぶ意義

児童はこの単元を酒々井学を通して学んでいます。その学習方法も教員や町職員による説明に加え、自分自身で地域を見て回ったり、図書館や広報紙・新聞記事・インターネットなどで調べたりすることで、町の課題を発見し、独自の「まちづくりプラン」を考え、シートにまとめる活動を行っています。

更に、各自が作成したシートをクラス内で発表し合い、代表者を選出して、実際に町当局に質問をする「こども模擬選挙・こども模擬議会」を行います。これにより、児童は、民主主義の仕組みを体験しながら学ぶことができます。

以上のように、単に説明を聞くだけではなく、児童にとって身近な町を題材にして、能動的に学習することで、より実感を伴った政治学習を展開することができます。そして、この学習を通して、児童一人ひとりが、明日の社会を支える「主権者の一人」としての意識を高めることも期待されます。

学習の流れ

今年度、大室台小学校で行われた授業の様子です。コロナ禍以前は、実際に町役場の議場で「こども模擬議会」を開催していましたが、感染拡大を防ぐため、質問・答弁は書面と映像で行いました。



①酒々井のまちづくり
企画財政課の職員が町の公共施設の建設過程と町総合計画について説明をします。



②酒々井町への願いシート
夏休みの課題として、各自で町の課題を調べ、独自の「まちづくりプラン」を作成します。



③選挙の仕組み
選挙管理委員会の職員が実際の選挙の仕組みや投票の仕方について説明をします。



④「まちづくりプラン」の発表
クラス内で各自が考えた「まちづくりプラン」をパソコンを使って発表し合います。



⑤こども模擬選挙
実際の選挙で使用する投票箱と記載台を使って、代表者を選出する選挙を行います。



⑥町長の答弁ビデオの収録
代表者からの質問に対して、実際の議会と同様に答弁書を作成して、ビデオ収録します。



⑦町長の答弁ビデオの視聴
代表者の質問に対して、町長が丁寧に答弁するビデオをクラスで視聴します。



⑧町長への発表
代表児童6人が町長に向けて、「まちづくりプラン」を発表します。(模擬議会の代替案)



⑨町の情報発信館での展示
飯積にある「まるごとすい」に、児童が作成したシートを展示しました。

「酒々井学」(ふるさと学習)に込めた願い

酒々井町教育委員会 学校教育課主査 一場 郁夫

酒々井学(ふるさと学習)のねらいは、町の歴史・文化・自然などについて知ること、郷土に対して愛着と誇りを持ち、町民としてのふるさと意識を育むことです。

♪ 糸追ひし彼の山 小鮒釣りし彼の川

夢は今もめぐりて 忘れがたき故郷♪

文部省唱歌の「ふるさと」の歌詞にあるように、子どもの頃にくらしの中で体感した環境は、「原風景」として心の中に残り、その後の人生の中で、物事の価値基準として働きます。

本佐倉城跡の景観や酒の井の碑から、町の歴史を感じ、梅の梢で羽を休めるメジロの囀りに耳を傾け、道端の水仙の香りに、ふと足をとめる。酒々井学を通して、子どもたちにそんな心の風景や感性をたくさん育んでほしいと思っています。

二〇一六年に改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が一八歳以上に引き下げられたことを契機に、多くの自治体で、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく主権者を育成する「主権者教育」を実践するようになりました。

自分の持ち物を大切にするように、ふるさと学習を通して、所有格意識(MYまち・Ourまち)を持つことで、わたしの町として、「大切にしたい」「よりよくしたい」という主権者意識を育むことにもつながります。つまり、ふるさと意識と主権者意識は相関関係にあり、相乗効果をもたらすものと考えます。

この酒々井学を通して、「しすいっ子」が、主体的にまちづくりに参画する町民として育ってくれることを願っています。

♪ 志を果たして いつの日にか帰らん

山は青き故郷 水は清き故郷♪

9 町議会だより「しすい」

こども模擬議会



町の職員が選挙についてわかりやすく説明



実際の選挙さながらの模擬選挙を体験



まちづくりのアイデアを堂々と発表

小中学生のまちづくり

ふるさと学習を通じた主権者教育の推進

身近な地域課題など小中学生の視点から

質問・提案

町では、独自のふるさと学習「酒々井学」の一環として、小中学生の主権者意識を育むことを目的にこども模擬議会が行われています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策等を考慮し、開催中止となりましたが、代わりに酒々井小学校、大室台小学校、酒々井中学校の代表15名から質問書が町に提出されました。

小学生代表者は

模擬選挙により選出

各小学校では、6年生が夏休み中に町の生活環境を調べ、現状と課題を調査し、改善するためのまちづくりプランをまとめました。9月には、各学級でまちづくりプランの発表会があり、その後、実際の選挙で使われる記載台と投票箱を使用した模擬選挙が行われ、各学級から代表者が選出されました。

3年前にこども議員として提案したプランの進捗を質問

中学校代表者からの質問の中には、小学生の時にこども議員として提案したプール施設導入についての進捗状況を確認する質問が提出され、その他には、コロナ禍におけるごみの収集、町のホームページに関する提案など、身近な地域課題、町の活性化や交通・施設整備、将来のまちづくりについて、小中学生がそれぞれの視点で質問・提案しました。

町からは、録画による町長の答弁が用意され、答弁書と一緒に各小中学校へ渡され、答弁には町長より「酒々井町と未来の発展のため、勉強やスポーツ・芸術活動に、より一層励まれ、大きく成長されますことを期待しております。」とメッセージが添えられました。※詳しい内容は、今後、広報に特集記事を掲載予定です。

12月定例会のお知らせ

次の定例会は、12月14日に開会する予定です。

なお、感染症予防対策として、本会議場内で傍聴できる人数を制限する場合があります。傍聴を希望される方は感染症予防対策へのご協力をお願いします。

また、議場は分庁舎2階第2多目的室に移転しています。

詳細は議会事務局にお問い合わせください。

☎(496) 1171

(内線271、272)

編集にあたって

今回は文書質問が初めて用いられました。議会も、コロナ対策と議会の権能との両立を模索しています。ご意見があれば議会までお寄せください。

委員長	酒瀬川 芳子
副委員長	白井 則邦
委員	江澤 真一
委員	御園生 浩士
委員	大石 法子
委員	小早稲 美穂

小中学生の提案力

こうすれば町は
もっとよくなる！

体育館を 健康で より安全な 避難所に

酒々井小学校
しもじょう ひらと
下条 拓知 さん

空気清浄機やエアコンを設置することで、コロナ禍においても健康でより安全な避難所になると思います。

中央公民館を 子どもたちが 自由に利用できる 施設に

酒々井小学校
こしかわ ももな
越川 桃菜 さん

学習スペースや運動を楽しむスペースなど子どもたちが自由に利用できる施設があれば町の活性化につながると 생각합니다。

公園に発電ブランコを 設置して 災害時の 電源を確保

酒々井小学校
やまざき りな
山崎 莉菜 さん

避難所の小さな子がストレスを発散する中で発電もできれば、大人にも子どもにも安心して過ごすことができると 思います。

駅の空きスペースに 床発電を使った ケンケンパの 設置を

大室台小学校
やまぐち ひなの
山口 陽菜乃 さん

駅のスペースの有効活用や子どもの遊び場が確保でき、発電した電気は駅で使ったり、余った電気を貯めて災害時に使用したりすることもできます。

公園に リサイクル ボックスの 設置を

大室台小学校
つちもと りゅうま
土本 琉真 さん

回収する場所を公園にすれば、簡単に行くことができます。リサイクルボックスの横には通常のごみ箱も設置して、一般のごみを入れるのを防ぎたいと思います。

ポイ捨てを 注意喚起する 標語入り 掲示板の設置を

酒々井中学校
いまい みく
今井 美玖 さん

大人がマナーを守れていなければ、小さな子どもの美化意識は向上しないと思います。ポイ捨てをしないように注意喚起する標語入りの掲示板を設置すると効果があると思います。

3年前の回答から どのような 進展が あったのか

酒々井中学校
よこた まほ
横田 真穂 さん

湯楽の里は、アウトレットが近くにあり、温泉にも入れるという利点から、温水プールを導入し、子どもや家族が楽しめる施設となれば町の活性化にもつながると考えます。

高齢者の方の 避難負担が 少なくなる 避難所の指定を

酒々井中学校
えんどう ゆの
遠藤 柚乃 さん

高齢者が災害時に長くて急な坂を登って避難所に向かうのは大変だと思います。避難の負担が少なくなる避難所指定という考えが大切だと思います。

コミュニティバスを 導入し 移動の不便さを 解消

酒々井中学校
すずき めい
鈴木 芽衣 さん

自動車の運転をしない方のためにバスの交通網を整備し、4つの駅と役場や病院等を結ぶコミュニティバスを導入し、町内の移動をしやすくすることが必要だと考えます。

酒々井の顔である 駅に賑わいが ないのは残念

酒々井中学校
むらもと ひより
村本 日和 さん

高校見学などで他の駅を訪ねる機会が多くあり、酒々井駅との違いを実感しています。商業施設を誘致することの難しさは理解していますが、チャレンジしていただきたい と思います。

獅子舞保存会を 結成し 練習会の 企画を

酒々井中学校
なるげ りのん
成毛 莉音 さん

現在、歴史ある町の獅子舞を継承する若い世代が少なくなってきました。このままでは、いつか町の獅子舞が途絶えてしまうのではないのでしょうか。

障がい者支援の取り組みを 広報誌や ホームページで 紹介

酒々井中学校
かわさき はるや
川崎 晴也 さん

健常者と障がい者を別にせず、多くの人がたくさん活動を共にできる町にしたいと思っています。障がいに関する知識を持ち、障がいについて正しく理解することが大事だと考えます。

移住の時に 町からの 補助を

酒々井中学校
てらさか
寺坂 さなみ さん

現在の町の課題は、農業従事者の減少と高齢化、ボランティア活動の参加者が少ないことだと考えます。若い世代の移住のために、具体的な政策が早急に求められていると考えます。

画像や動画を取り入れて 視覚的に 見やすく

酒々井中学校
なかひら さき
中平 沙希 さん

町のホームページは、文字が多く、見やすいとは言えないものだと思います。ホームページを見やすくするだけで、町の第一印象が大きく変わり、町の魅力を知ってもらえると思います。

ゴミ置き場の 状況を調査し 拡散する等の 対策を

酒々井中学校
さつさ ゆりか
颯佐 友理香 さん

毎週ゴミ回収の日になると、朝早くからゴミ回収ボックスの中が一杯で、ゴミを入れられないところがあります。ゴミ置き場の現在の状況を調査し、拡散する等の対策をすると思います。

故郷への理解深める

酒々井町立大室台小 施策の全体像を示す「総り、愛着と誇りを持つてまちづくりを担う」が、自分たちが暮らす町の取組みにについての町職員による出前講座が開かれた。6年生約70人が参加し、公民施設建設、町教委によると、郷土設までの過程や、自治体の歴史や文化などを知

酒々井 大室台小

町職員による出前講座の感想述べる大室台小の6年生＝8日、酒々井町

ら、愛着と誇りを持つてまちづくりを担う」というのが、小中学校教育に取り入れている学習プログラム「酒々井学」の一環。6年生は「酒々井のまちづくり」をテーマに学習しており、本年度はNIE（教育に新聞を）事業や、持続可能な開発目標（SDGs）の要素も取り入れるという。

講座では最初に、2003年オープンの大室施設「プリミエール酒々井」の概要を紹介した。その後、町職員による出前講座が行われ、町職員は、町民の生活や、町の発展について話した。

町には、6年生が町の課題を洗い出し、自ら考えたアイデアや改善点を出し合う夏休みの宿題がある。考えたプランは毎年実施している小学生の代表による模擬議会でも町長や町執行部に発表できる。過去に子どもたちの提案などでも実現した政策には、小中学校の屋上への太陽光パネル設置やJR酒々井駅のエレベーター整備がある。

組合計画については、町が取り組もうとするまちづくりや福祉、環境などさまざまな政策分野の理念や目標を一つずつ説明。武藤百伽さん（11）は「いろんな取り組みがあることが分かった。私は若い世代を意識した取り組みを増やし、たくさんの人に町を知ってもらえるようにしたい」。

町には、6年生が町の課題を洗い出し、自ら考えたアイデアや改善点を出し合う夏休みの宿題がある。考えたプランは毎年実施している小学生の代表による模擬議会でも町長や町執行部に発表できる。過去に子どもたちの提案などでも実現した政策には、小中学校の屋上への太陽光パネル設置やJR酒々井駅のエレベーター整備がある。

「千葉日報」より掲載記事
.....
「酒々井のまちづくり」導入授業

2021(令和3)年 9月24日

酒々井学しすいがく

酒々井町は独自の方法で、小中学生民主主義の仕組を学ばせている。三年生以上の各学年教科に導入した「酒々井学」で、地域についての基礎知識を高めていくとともに、町政課題ならをテーマとした模擬選挙と議会活動を経験する児童生徒に体験させることで、主権者意識を育む。

（堀場達彦）

本年度の模擬選挙は、九月に酒々井小学校の三年級、十月に大宮南小学校の二年級で行われた。夏休み中に全児童が町の生活環境の現状や改善点を調べ、各員が「酒々井町への願い」と題した提言をシートにまとめて発表。児童一人一人が最高評価を下した発表内容の提言者に投票し、模擬議会に議員として参加する。今年七月、図書館と文化ホールの複合施設「フリミエール酒々井」の機能が完成までの過程を町職員らが講義した。子どもたちは、この授業を考へ、それぞれ課題調査へ乗り出した。

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

地域学習+主権者教育

酒々井町では、六月に隣の八街市で発生した児童五人死傷事故の衝撃が大きかったため、交通安全を中心にした「交通安全を学ぶ」が自主的に行われた。夏休みや図で発表とみられる場所を具体的に示して「ガイドレールを付けてほしい」「カーブミラーを設置してほしい」など、提言していた。

駅前商店街の環境美化、環境保全、地球温暖化対策についての発表も多かった。各教室での発表に続いて、児童たちは多目的教室に移動。実際の選挙用の投票箱や投票用紙を使った模擬選挙に臨んだ。

酒々井町のうち、「ごみ投票の多い場所を把握し、

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

子どもが学ぶ民主主義

酒々井町では、六月に隣の八街市で発生した児童五人死傷事故の衝撃が大きかったため、交通安全を中心にした「交通安全を学ぶ」が自主的に行われた。夏休みや図で発表とみられる場所を具体的に示して「ガイドレールを付けてほしい」「カーブミラーを設置してほしい」など、提言していた。

駅前商店街の環境美化、環境保全、地球温暖化対策についての発表も多かった。各教室での発表に続いて、児童たちは多目的教室に移動。実際の選挙用の投票箱や投票用紙を使った模擬選挙に臨んだ。

酒々井町のうち、「ごみ投票の多い場所を把握し、

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

よい案に投票！

酒々井町では、六月に隣の八街市で発生した児童五人死傷事故の衝撃が大きかったため、交通安全を中心にした「交通安全を学ぶ」が自主的に行われた。夏休みや図で発表とみられる場所を具体的に示して「ガイドレールを付けてほしい」「カーブミラーを設置してほしい」など、提言していた。

駅前商店街の環境美化、環境保全、地球温暖化対策についての発表も多かった。各教室での発表に続いて、児童たちは多目的教室に移動。実際の選挙用の投票箱や投票用紙を使った模擬選挙に臨んだ。

酒々井町のうち、「ごみ投票の多い場所を把握し、

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

よい案に投票！

酒々井町では、六月に隣の八街市で発生した児童五人死傷事故の衝撃が大きかったため、交通安全を中心にした「交通安全を学ぶ」が自主的に行われた。夏休みや図で発表とみられる場所を具体的に示して「ガイドレールを付けてほしい」「カーブミラーを設置してほしい」など、提言していた。

駅前商店街の環境美化、環境保全、地球温暖化対策についての発表も多かった。各教室での発表に続いて、児童たちは多目的教室に移動。実際の選挙用の投票箱や投票用紙を使った模擬選挙に臨んだ。

酒々井町のうち、「ごみ投票の多い場所を把握し、

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

よい案に投票！

酒々井町では、六月に隣の八街市で発生した児童五人死傷事故の衝撃が大きかったため、交通安全を中心にした「交通安全を学ぶ」が自主的に行われた。夏休みや図で発表とみられる場所を具体的に示して「ガイドレールを付けてほしい」「カーブミラーを設置してほしい」など、提言していた。

駅前商店街の環境美化、環境保全、地球温暖化対策についての発表も多かった。各教室での発表に続いて、児童たちは多目的教室に移動。実際の選挙用の投票箱や投票用紙を使った模擬選挙に臨んだ。

酒々井町のうち、「ごみ投票の多い場所を把握し、

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

▼ 夏休みを利用した調査結果の発表 ▼

危険な道路

ごみ問題

商店街振興...

「町をこうしたい」

調査して発表

11 主権者教育 先進地視察報告（山形県遊佐町「少年議会」）

1. 遊佐町「少年議会」の説明

中学校社会科（公民）教科書・第3章「現代の民主政治と社会・3節地方自治と私たち」での事例解説－「山形県遊佐町は、より良いまちづくりのためにも若者の力が必要だと考え、少年議会を設置しました。一人の少年町長と定員10人の少年議員で構成され、毎年、町内在住・在学の中学生と高校生の中から選挙で選ばれます。また、45万円の独自の予算を持ち、提言を町の政策に反映させることができます。」（東京書籍より）

（1）視察日 令和3年11月25日（木）

（2）対応者 遊佐町教育委員会 教育課 社会教育係 主事 菅原優輔氏・風間雅文氏

（3）質問事項

①主権者教育推進の経緯「少年議会を始めた理由は？」

- ・前町長の小野寺氏が1970年の山形県青年議会で1年間の調査研究の上に、当時の知事や県幹部に壇上で質問をした体験が発案に影響している。
 - ・1975年代に日本青年団の役員として18歳選挙運動に取り組み、若者の意見を活かすことの重要性を学んだ。
 - ・平成の大合併以降の時代状況として、遊佐町の人口減少、少子高齢化、職住分離、生活形態の多様化などの社会の変化の中で、時代を牽引する若者も減少していく中で、遊佐町を担う若者によるこれからのまちづくりの重要性があった。
- ➡2003年少年町長・少年議員公選事業誕生（2021年度現在19期）

②推進体制「町や学校の推進体制は？」「役場内や学校との連携体制の状況は？」

- ・町では町政を担う各機関（選挙管理委員会・町議会事務局・企画課企画係・教育委員会）からメンバーを招集しプロジェクト会議を組織する。
- ・事務局は主担当の教育委員会
- ・各学校に少年議会の担当教員を置いていただき、遊佐中学校・遊佐高校・酒田市の4つの高校の計6校を訪問し、担当教員との打合せと対象生徒（遊佐町在住在学）全中高生に対して説明会を行っている。（中学1年から高校3年まで全6期までできる）

③少年議員の選出方法と現状「毎年の立候補状況はどうか？」

- ➡資料1参照 令和3年度町長1名立候補、令和2年度議員16名（定数10）で選挙の実施
選挙は選挙公報で実施するが、落選した者も役職が与えられて参画することができる。

④小学校教育との連携状況「小学校では少年議会に対してどのような取組を行っているのか？」

- ・小学校では授業の一環として町議会を傍聴する機会が設けられている。また、6年生を対象として少年議会の事業説明を行っている。

⑤45万円の予算設定理由「どのような過程で予算化したのか？」

- ・第1期50万円、第2期75万円、第3期50万円、第4期～45万円の予算化
- ・2代前の町長の時に「未来創造委員会」という会議が設置され意見聴取を行ったが、聴取で終わり会議自体も消滅した。そこで、現町長が議員として予算化して、町の事業として定着させた。
- ・実際の支出方法は当初予算で45万円計上
- ・スケジュール（申請月➡支出月）は8月の第2回少年議会で申請し、物品が完成したら納品後の1月に支出する。
- ・業者への支払い契約は、少年町長の名前で行い、30万円を越える場合は契約書を交わす。
- ・申請書や実績報告は、教育委員会事務局（2名）と社会教育アドバイザー（教員OB）が行う。

⑥具体的な少年議会で議決された事業「今までにどのような事業を行ってきたのか？」

➡※ 2. 遊佐町「少年議会」製作物調査参照（現在も残っている物）

「米～ちゃん絵本・特産物のパブリカレシピ集・遊佐町大図鑑・観光パンフレット・少年議会ガイドブック・町民体育館外階段への米～ちゃんアート、町内4カ所への手作りベンチの設置（遊佐駅・商業施設・子どもセンター・生涯学習センター）、町立図書館への学び合いスペースの増設」

・製作物の作業は全員協議会での年間14回～20回の夜間（18:00～20:00）の時間帯で行う。

⑦教育効果「少年議会議員の教育効果（意識の変容）は？」

・自分が暮らす町を調査し、よさや課題を明らかにしていく中で、遊佐町に関心を持つようになった。独自の予算で政策を実現させるため、地道に調査や検討を行い、町当局や外部団体と協議する中で、自信や責任感が生まれた。卒業後は、様々な団体グループ代表や、町のイベントの実行委員長を務めるなど、地域におけるリーダーが育ち始めている。

➡町役場の職員になった元少年議員1名

・少年議会議員以外の生徒の教育効果（主権者意識）は、第19期目を迎え、知名度も上がってきている。選挙前には、啓発運動や防災無線を使って投票を呼びかけている。少年議会が行政に関わる姿を見て、政治参加意識が上がっていると感じられる。中学生の頃から、本物の選挙と同じようなシステムで少年議会の選挙を体験し、若者の実際の選挙の投票率が向上している。（衆議院議員選挙における遊佐町の18歳の投票率62%）

➡山形県の10代投票率は全国1位

⑧少年議会の議員（参加者）のその後「少年議員たちはどのような大人になっているのか？」

・追跡調査は行っていない。ただ、少年議会を経験後に町に戻り活躍している人もいる。

⑨町民の声「町民の少年議会への協力状況・関心度はどうか？」

・子ども達の挨拶の仕方や人前での発言などについて、活動の後半になると洗練されてきて、賞賛される。
・少年議会の知名度も上がり、地域の一員として認められ、各種団体から少年議会に対して意見を求められる場面も見られるようになった。

⑩少年議会を実践しての成果

・若者の意見はトレンドなど大人には思いつかないアイデアが出てくる。今後も若者の提言を町議会と同等の重みを持って受け止め、政策に反映させていきたい。町行政としても若者の考えを大切にすることで、若者の町政参加や暮らしやすいまちづくりを実現していきたい。
・山形県の18・19歳の国勢調査等の投票率は全国トップクラス（1位の年もあった）である。

⑪少年議会を推進する上での課題（今後の展望）

・近年、主権者教育が注目されるようになり、国会議員の視察や海外メディアの取材など町外からの注目度は高まっているが、毎年の少年議員への立候補者の確保が課題となっている。これは、活動内容の周知が未徹底であること、政策活動への参加呼びかけ不足が原因により少年議会への参画に対して不安を感じさせていることがあると考えられる。

また、保護者の理解が得られず、立候補を断念する生徒もいた。さらに、少年議会のメンバー内での日程調整や意見調整がうまくいかない場合もある。

この事業においては、少年議会の自主性を尊重しているため、大人の意見の押しつけにならないように配慮している。そのため、意見を出しやすく、かつ効率よく、忙しい中高生の負担にならないような手法について、担当者レベルのスキルアップが必要とされる。

2. 遊佐町「少年議会」製作物調査

少年町長・少年議員による全員協議会で決めた政策を 45 万円の予算を用いて実現した製作物

(1) 米～ちゃん絵本「米～ちゃん一家のキメコトバ」(第 8 期製作)

町のイメージキャラクターの「米～ちゃん」を使った絵本で、町の名産である米づくりの過程とお米を大切にしておいしく食べることの喜びについて伝える物語になっている。自分たちの暮らす町の農産物を大切にするふるさと意識を育むよい企画と考える。



(2) パプリカレシピ集 (第 13 期製作)

少年議会のアンケートの「遊佐町をもっとPRしてほしい」という声のもとに、町の特産品の「パプリカ」に目をつけ、地域住民にパプリカを使った 26 品の料理のレシピを提供してもらい、編集した冊子である。地域住民を巻き込んだ企画として、少年議会の取組の広報にもつながったよい製作物だと考える。



(3) 遊佐町大図鑑 (第 14 期製作)

遊佐町ではたくさんのイベントを行っているのに町内外の人にはあまり知られていないことに気づいたことから、1 年間の行事を一つにまとめたイベント集を作成することにした。町民に向けて参加を呼びかけているが、中高生も参加することで、全体で町を活性化する啓発活動にもつながる企画である。



(4) 町民体育館外階段への米～ちゃんアート (第 15 期製作)

手作りベンチの設置外階段の段差を使って、階段を上がる前に、町のイメージキャラクターの「米～ちゃん」を描いたアートを製作した。町民が集まる 4 カ所（遊佐駅・商業施設・子どもセンター・生涯学習センター）に少年議会の手作りベンチを設置した。町内外の人々に温かみのあるベンチで、駅に降りた際に、とても目立つため、町の広報にもなっている。



(5) 観光パンフレット「YUZA! YAMAGATA」(第 16 期製作)

少年議員の中で「町の観光について名前は知っているがどんな所なのかわからない」との声があったことから、町の観光地やおすすめの場所やモノを若者目線で調べてまとめたパンフレットである。

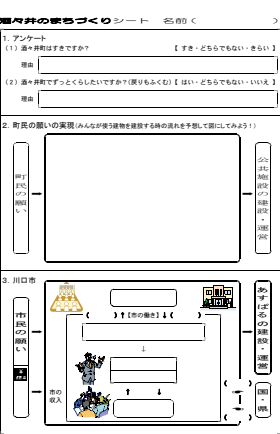
内容は、「①遊佐町ラーメン②遊佐町ほっと一息③遊佐町自然④遊佐町少年議会⑤遊佐町米～ちゃん」となっている。中高生に町を見つめ直す機会と町の広報という一石二鳥になった企画である。



(6) 少年議会ガイドブック「少年議会のトリセツ」(第 18 期製作)

少年議会の認知度を上げることで、町民には理解と支援を求めて、中高校生には、主体的にまちづくりに参画する意識を高めてもらうために作成した。構成は、「①少年議会ってなに？②少年議会の 1 年間③ウチらの政策④センパイの政策⑤歴代少年議員の声⑥少年議会に質問！」となっている。



酒々井学のすすめ			教員向け指導ガイド（2019.4.1 発行） 教員が指導しやすいように、発問で構成した学習プログラムとワークシートを中心とした指導ガイドを作成した。既存の地域教材に教科等の学習内容を関連づけた点に特徴がある。また外部人材等の学習支援体制を整えるなど、町の行政機関との連携・協働体制で実践できるようにしている。
いいね！酒々井			子ども向け副読本（2020.3.31 発行） 子どもが酒々井学を学習するための副読本として、指導ガイド「酒々井学のすすめ」に準拠して作成した。過去の「こども模擬議会」の質問内容一覧、児童が作成した「酒々井町への願い」シートの作品例、酒々井をささえる人々の紹介、酒々井の民話、酒々井の古写真、酒々井の里山図鑑、酒々井町郷土史年表等で構成されている。
酒々井発見伝			教員向け指導資料集（2021.3.31 発行） 教員が酒々井学の教材研究をしたり、指導したりする際に活用できる資料集として作成した。学校郷土資料館の展示資料解説、地域住民が保管していた町の古写真、生物画像、近隣の大学との連携で作成した明治から現代に至るまでの年代別の町地形図、町政施行 90 周年記念誌の復刻版、町発行の歴史関係のリーフレット等で構成されている。
学校郷土資料館			酒々井学の学習拠点（2019.2.1 開館） 地域住民から提供された民具や農具及び昔の学校で使用していた道具等を収蔵していた空き教室を活用し、酒々井学の学習拠点として学校郷土資料館を整備した。児童にとって読みやすい表現に努めた展示資料解説やイラストパネル等を設置して、郷土で暮らしてきた人々の仕事や生活の様子をイメージしやすいように工夫をした。

● ● ● お わ り に ● ● ●

本冊子に記載している主権者教育の実践は未完成です。**主権者意識を育む**という言葉
を「お題目」としないために、基盤作りと更なるブラッシュアップが求められます。

実質的な主権者教育にするための基礎としてふるさと学習があります。しかし、その
前に、まずは子ども自身が、自分を知って好きになることが求められます。自分が好き
だから、自分を大切にしてい、向上心を持つようになります。自分がいる学級や学校が好
きだから、大切にしてい、よりよい学級や学校にしようとする。そして、自分が暮らす町
が好きだから、町を大切にしてい、よりよい町にしようとする。

自分が生きている地球が好きだから、大切にしようと思って、地球市民としてSDGs
(持続可能な開発目標)に参画する。このような「好き➡大切に➡よくする」という単純
な図式が、主権者教育の基盤として必要なのだと思います。

その意味において、このふるさと学習を通した主権者教育を実践して、子どもにふる
さと意識から主権者意識を育むというステップは、自然の成り行きなのかもしれません。

さて、次のステップは、その子どもの「町をよりよくしたい」という願いを、「より
よくしよう!」という意欲と参画意識にまで高めることです。子どもたちに自分たち
にもできるという可能性を感じさせる。そのために私たち大人が次に何をすればよいか、
その答えは自ずと見えてくるのではないのでしょうか。

●協力者・協力機関

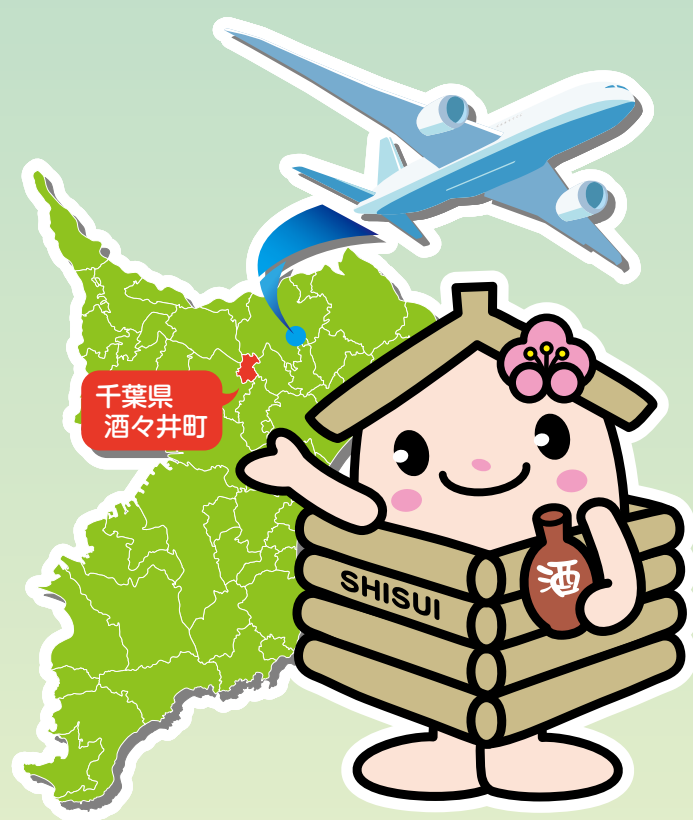
- ・山形県遊佐町教育委員会
- ・株式会社 中日新聞社（東京新聞社）
- ・株式会社 千葉日報社
- ・酒々井町役場 各課職員

ふるさと学習を通した「主権者教育のすすめ」

発行日	令和4(2022)年3月1日
編集・発行	酒々井町教育委員会 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11 TEL.043-496-1171
印刷	山本印刷株式会社

令和3年度「主権者教育」優良事例普及推進事業（総務省：委託業務）

★本紙掲載の画像・イラスト等を無断で複写・転載することを禁じます。



酒々井町教育委員会